607-216
1200501532846

6. 2.12

141

レーニン著

一九一七年

佐野學譯

白揚社版

レーニン著
佐野學譯
（レーニン叢書第十五編）

一九一七年

東京　白揚社出版

607-216

譯者例言

一　本書はさきに出版されたレーニン著作集第五卷「一九一七年」を基礎としたものである。

二　本書には「階級力の消長」「ボナパルト主義の開始」「ペテログラード市地區會選擧と諸政黨」の三論文を新に加へた。

三　本書の前版には見るも悲慘な削除が加へられてゐる。一頁二頁はおろか、約二十頁も續けて削除されてゐる個所もある。この新版はこれらの空隙を原文通りに埋めることをやはりしなかつた。殘念であるが仕方があるまいと考へる。たゞ前版で空白になつてゐた個所は何行省略、何頁削除といふ字を入れて表はし、外觀上の不體裁をとり除いた。又、原意を損はない限り、切斷された個所から次の個所への續き方をよくするに力めた。要するに一九一七年三月より十一月に至る革命期のレーニンの諸論文を完全に飜譯して世に問ふことは當分殆んど絶對に不可能であらうから、この省略多き譯書でも讀んで貰ふ外にない。

四　「第一革命の第一段階」及び「プロレタリアの民兵」の二篇は、本年、高山洋吉君の飜譯された

「遠方からの手紙」にも載つてゐる。本書前版では右二論文を通じて約三頁半削除されてゐたが、高山君の譯書に許されてゐる部分は本書においても復活した。

五、本書には十一月革命間近におけるレーニンの諸論文、特に武裝蜂起を取扱つた論文は一篇も載せ得なかつた。これも一九一七年革命におけるレーニンの諸論文が完譯され難い一般的理由から已むを得ないのである。

六、終りに、レーニンの三月革命より十一月革命に至るまでの間の論文でドイツ語で私の讀み得たものの表をドイツ語を讀む讀者の便宜のために次に掲げる。從前、「コンムニスチツシエ・インテルナチヨナーレ」其他に發表された分は今年の三月以降の「インプレコール」のロシヤ革命紀念の欄に收められてゐるから、それと重複する既刊分は省略する。ドイツ語レーニン全集は一九一七年と題するもの二冊を刊行する筈で、それは今年から明年にかけて刊行される筈である。私は一般的には一九一七年革命、特殊的には同年のレーニンの諸論文はプロレタリアートにとつて最も教訓的であるとおもふから、できる限り本書に收めた以外のレーニンの論文を其内に飜譯し度いと考へてゐる。

獨譯「レニン選集」所收の分

第一革命の第一段階(一九一七年三月二一—二二日)
現在の革命におけるプロレタリアートの任務について(同年四月七日)
二重支配について(同年四月九日)
戰術についての書翰(同年夏)
わが革命におけるプロレタリアートの任務(プロレタリア黨の綱領草案)(同年九月)
標語について(同年七月)
妥協について(同年九月六日)
人は内亂を驚愕す(同年九月十六日)
マルクス主義と一揆(同年九月)
ボリシエヴイキのペテルスブルグ委員會及びモスカウ委員會への書翰(同年十月)
一不參加者の忠告(同年十一月七日)
同志への書翰(同年十月一九—二一日)

インテルナチヨナーレ・プレツセ・コレスポンデンツ(インプレコール)所收の分

ツーリツヒにおいてのロシヤ革命に關する講演（一九一七年三月三十一日發表）　インプレコール、一九二七年

三月十七日テーゼ草案　同　第二九號
國外よりの書翰（一）（第一革命の第一段階）　同　第三〇號
同　（二）（新政府とプロレタリアート）　同　同
同　（三）（プロレタリアの民兵）　同　第三一號
同　（四）（誰れが平和を强要するか）　同　第三二號
同志ガネツキイへの書翰（三月三十一日）　同　第三三號
四月テーゼ現在の革命におけるプロレタリアートの任務　同　第三四號
ロシヤの政黨とプロレタリアートの任務（四）　同　第三六號
資本家の無恥なる虚言（四月二五日）　同　第三七號
戰術についての書翰（四月）　同　第三九號
兵士と土地（四月二八日）　同　第四〇號
ソヴイエットへの答辯（五月一日）　同　第四二號
　　同　第四三號

假政府の教訓（五月四日）　同　第四五號
危機の教訓（五月六日）　同　第四六號
假政府の統制について（五月七日）　同　第四七號
「四月會議」の決議（戰爭に關する決議文）　同　第四九號
權力の危機（五月十五日）　同　同
全ロシヤ農民會議への公開狀（五月十七日）　同　第五一號
秘密條約の一（五月二三日）　同　第五二號
農民問題テーゼ草案（五月）　同　第五三號
經濟的破滅近づけり（五月二十七日）　同　第五四號
全ロシヤ農民會議における演說（六月四日）　同　第五五號
國際主義者の團結について（六月三日）　同　第五六號
二重權力は消滅したか（六月二日）　同　第五七號
ペテログラード市地區會選擧と諸政黨（六〇六日）　同　第六〇號
破滅とそのプロレタリア的克服（六月十七日）　同　同

ソヴイエットと國家權力(第一ソヴイエット大會演說)　同　同　第六四號
第一ソヴイエット大會演說(六月二十二日)　同　同　第六六號
革命、攻勢及び吾黨(七月四日)　同　同　第六七號
七月一日(七月三日)　同　同　第六八號
社會革命黨とメンシエヴイキとは革命をどこに赴かせたか(七月五日)　同　同　第七一號
階級力の消長(七月十日)　同　同　第七三號
標語について(七月)　同　同　第七五號
ボリシエヴイキは裁判所へ出てゆくべきか(七月)　同　同　第七六號
多數と國家權力(八月初)　同　同　第八三號
ボナパルト主義の開始(八月十一日)　同　同　第八九號
カメネフがソヴイエット中央委員會においてストツクホルム會議についてなした
演說について(八月二九日)　同　同
革命の一根本問題(九月二十七日)　同　同
其他

革命の教訓(一九一七年九月)　ルージツシエコレスポンデンツ第三年第二卷所收のもの及び一九二一年ウイーン刊行の二種あり。
國家と革命(九月執筆)　二譯あり
切迫する大破綻(九月)　ソフイー・リーブクネヒト譯、一九二〇年刊
ボリシエヴイキは權力を維持するであらうか(十月一日)　一九二一年ウイーン刊行
危機は解決に近づけり(十月七日)　ルージツシエ・コレスポンデンツ第二年第二卷

一九二七年十一月二十日

佐野學

一九一七年目次

第一篇　第一革命の第一段階（一九一七年三月）……一
第二篇　プロレタリアの民兵について（同年三月）……一九
第三篇　如何にして平和を強要するか？（同年三月）……四三
第四篇　プロレタリア黨の綱領草案（同年四月）……五七
第五篇　ロシアにおける諸政黨（同年四月）……一二三
第六篇　戰術についての書翰（同年四月）……一三
第七篇　ペテログラード市地區會選擧と諸政黨（同年七月）……一五七
第八篇　階級力の消長（同年七月）……一六三

第九篇　標語について（同年七月）……一七一
第十篇　革命の教訓（同年七月）……一八七
第十一篇　ボナパルト主義の開始（同年八月）……二二七
第十二篇　妥協について（同年九月）……二三七
第十三篇　ロシア革命の一根本問題（一九一七年九月）……二四一
第十四篇　切迫する大破綻、如何にして之と闘ふべきか？（一九一七年九月）……二五七
第十五篇　ボリセヴィキは權力を維持するであらうか（一九一七年十月）……二三三
第十六篇　危機は解決に近づけり（一九一七年十月）……二六一

目次終

一九一七年

佐野學譯

第一篇　第一革命の第一段階

國外よりの書翰

（一九一七年三月二十一、二十二日『プラウダ』第十四、十五號所載）

帝國主義戰爭の產物なる第一の革命が爆發した。この第一××は確かに最後のものではないであらう。

この文章の筆者がスキスに於て得てゐる乏しい報道によると、この第一の革命卽ちロシア革命の第一の段階は確かに最後の段階ではないであらう。

差し迫つた八日間に――ミリウコフ先生がロシアの在外代表者のすべてに自慢らしい速報便で力說した短い時間內に――數世紀の間存續し、そして一九〇五―一九〇七年の最大の民衆的階級的鬪爭の三年間にすらあらゆる襲擊を遮ぎり止めたところの帝政が、忽ち接目から離れる、といふ奇蹟が如何にして起つたのであるか？

自然界及び歷史には奇蹟がない。しかし歷史上の各種のだしぬけの轉換、各種の革命は、凡俗者流の眼には、奇蹟以上と映るほどの豐富な內容を生みいだし、鬪爭者の鬪爭形態と力の關係とに、豫期せざる特有なもろ〳〵の組み合せを展開させるのである。

ツアールの帝政が數日間に崩壞し得るためには、歷史上、世界的意義ある一團の連續せる條件が必要であつたのである。吾々はその最も重要なものを檢討しよう。

一九〇五年より一九〇七年に至る三年間の偉大な階級闘争とロシアのプロレタリアートの××的エネルギーなくしては、かくも急速なる――僅少の時日に其最初の段階を完成したといふ意味における――第二××は不可能であつたらう。第一××（一九〇五年）は根底を深く動揺させ、幾百年間の永き偏見を根絶し、幾百萬の勞働者、幾億の農民を政治生活、政治闘争に眼ざめしめ相互の間に――そして全世界に――ロシア社會の全階級（及びすべての重要な政黨）の眞性質、その利益、その力、活動方法、その近い目標又は遠い目標の交互關係をそれ〴〵に示した。第一××及びそれに續く反革命の時代（一九〇七年乃至一九一四年）は××の全本質を曝露し、それを最後まで押し進め、その廢頽、その卑陋を曝露した。（五行略）

一九〇五年乃至一九〇七年の××なくしては、一九〇七年乃至一九一四年の反××なくしてはそれが一九一七年二月三月××の八日間に自ら示されたような、ロシアの民族及びロシアに住む民族のあらゆる階級のかくも峻嚴なる「自己決定」、これら階級の相互關係及び××に對する關係の決定は不可能であつたらう。

この八日間の××は、譬喩的に表現するとすれば、十回も下稽古を積んだ後に「演出された」よ

うなものであつて、「役者」は互に知り合つて居り、その持役、その位置、その環境を知り抜いてゐた。上から下まで、政治的傾向や行動の最後の、幾分でも重要な段階まで知り抜いてゐた。

だがグチコフ、ミリウコフ氏等が其家來どもと共に「大きな××」なりと斷定した一九〇五年の偉大な第一××が、十二年の後、それが（一時）彼等に政權を與へた故を以てグチコフやミリウコフが「光榮ある」××なりと稱讃した一九一七年の「光輝あり」「光榮ある××」に導いたとすれば――それは一面、世界史の進行を著しく促進せしめ、そして他面、未曾有の力を持つた世界危機、經濟的、政治的、全國的及び國際的危機をひきおこすことのできた一人の偉大な、力强い、全能の舞臺監督が必要であつたのである。

この全能な『舞臺監督』この强力な促進者こそ、帝國主義世界戰爭であつたのである。

今日、この戰爭が一の世界戰爭であることは、疑を容れない。何となれば、今日、既にアメリカ合衆國及び支那は半ば戰爭に引きずり込まれて居り、明日となれば全く引きずり込まれてしまふであらうからである。

戰爭が兩方の側よりする帝國主義戰爭であることは、今日既に疑ふべからざることである。資

本家とその提灯持ち、即ち愛國社會主義者と排外社會主義者のみが、この事實を拒んだりゴマカシたりする事ができるのである。ドイツ並に英佛のブルジョアジーは、世界に於ける金融資本の支配、植民地の分割と新分割とを確立し、諸國の勞働者を欺瞞し切り離すことに依つて沒落しつつある資本主義の支配を救ふために（一行略）戰爭を行つたのである。

帝國主義戰爭は客觀的不可避性を以てブルジョアジーに對するプロレタリアートの階級鬪爭を異常に促進し、未曾有に鋭からしめざるを得なかつた。帝國主義戰爭は、相敵對せる階級間の××におのづから轉化せざるを得なかつた。

この轉化は、一九一七年の二月―三月革命によつて始まつたのである。その最初の段階は、ブルジョア的地主的ロシアに於ける二つの勢力が、ツァーリズムに對して共同の打擊を加へた事を示してゐる。一方のものは、英佛の大使と資本家との意識的な御者と無意識的な隨伴者とであり他方のものは勞働者兵卒のソヴィエットである。

この三つの政治的陣營、三つの政治的根本力は次の如くである。第一は封建的地主の首長であり、舊き官僚と舊き將軍連の首長たるツァールの帝政であり、第二は背後に小ブルジョアを控へ

たるブルジョア地主、十月黨（オクトブリスト）員、立憲民主黨（カデット）のロシアである、第三は全プロレタリアーと窮乏せる全大衆とのなかに同盟者を求めてゐる勞働者及兵卒代表者ソヴィエットである。これら三個の政治的根本力は、既に絕對的の明確さを以て『第一の段階』の八日間に現れて來た。それは外國新聞紙の不十分な電報のみを賴りとせざるを得ないこの文章の筆者の如く、出來事から遠く離れてゐる觀察者にとつてすら、明瞭である。

しかし私はより詳しい論議に入る前に、最も重もな力の一要素、即ち帝國主義戰爭を取扱つた私の書翰の一節を引用せざるを得ない。

戰爭は交戰せる諸列强、交戰せる資本家の諸團、資本主義制度の『諸紳士』、資本主義的奴隷所有者を鐵の鎖を以て相互に縛り付けたのである。唯一の血腥き毛毬（テダマ）――これが今日吾々の當面してゐる歷史的瞬間の社會的政治的生活である。

戰爭の初めにブルジョアジーの方へなだれ込んだ社會主義者、ドイツに於けるダヴィットとシャデイマン、ロシアに於けるプレハノフ、ポトレソフ、グヴォスデフ一黨は長い間、喉をからして革命家の『幻想』、バーゼル宣言の『幻想』、帝國主義戰爭××××××××といふ『道化芝居（ファース）』

に向つて吼え立てた。彼等はあらゆる音調を弄して、資本主義が外見上に明示した力、その生存力、その適應能力を賞讃した。諸國の勞働階級に『適應』を強ひ、これを墮落させ、愚鈍にし、これを分裂せしめ、以て資本家を助けたものは彼等である！

しかし『最後に笑ふ者は最も善く笑ふものである』。ブルジョアジーは、戰爭によつて生じた革命的危機を引き延ばし得なかつた。この危機は遮るべからざる力を以て、あらゆる國々に、それはドイツを初めとし、英佛にまで及んだ。ドイツは最近まで同國にゐた一觀察者の言を以てすれば、『獨創的に組織せられた飢餓』に襲はれて居り、英佛でも同樣に飢餓が近づいて居り、その組織は同じように『獨創的』である。

紊亂が最も甚しく、そしてプロレタリアートが最も××的な(それは、その特殊性のためでなくて、一九〇五年の生命ある傳統の結果である)ツァール治下のロシアに於て、××的危機が最も早く爆發したことは自然である。(六行略)

しかし戰爭の敗北は危機の爆發を促進する消極的要素の役割を演じたが、英佛の金融資本、即ち英佛の帝國主義とロシアの十月黨的、立憲民主黨的資本との結合こそは、この危機を促進した

ところの積極的要素である。

事件の此異常に重大なこの方面に關しては、英佛の新聞は容易に推察のつく理由からこれを默察し、ドイツの新聞は嘲笑的に吹聽してゐる。吾々マルクス主義者は、大膽に眞理を認識せねばならない、交戰せる第一流帝國主義者團の外交官や大臣の虛僞、その官僚的な、甘い外交的虛僞や、他の交戰者國の金融的軍事的競爭者の囁きや秋波に惑はされてはならない。二月—三月革命の出來事の全行程は、英佛の大使館員が、ニコラス二世とウイルヘルム二世との『單獨』の協定や單獨平和の締結を妨害するために既に長い間絕望的な努力をしたところの、その代辯者や『同盟者』と共に、直接にロマノフ家のニコラスを退位させようと努力してゐたことを、明かに示してゐる。

吾々はいかなる幻想をも描かうと欲しない。

革命は甚だ急速に勝利を占め、そして——外見上、一瞥した表面上——また甚だ『急速的』に勝利を占めたのであるが、それは非常に特色ある歷史的事情が全く異つた潮流、全く異つた階級利益、全く對抗してゐる政治的社會的勢力を結合し、著しく『調和的』に融合したが故にのみ、

出來たのである。一方には英佛帝國主義者の一味があつた。彼等は戰爭を長引かせ度い者の利益のために、もつと狂暴にして頑固な戰爭の遂行の利益のために、ロシアの新しき數百萬人の勞働者と農民の××の利益のために、ミリウコフ、グチコフ一黨の權力獲得を實現せしめたものであり、これに依りて、グチコフはコンスタンチノープルを、フランスの資本家はシリヤを、英國はメソポタミヤを得るのである。これが一方である。他方に於てはパンと平和と眞の自由とを要望する革命的性質を持つた、深刻なプロレタリア的大衆運動と（都市及び農村に於ける最も窮乏せる人民の）民衆的な運動があつた。

革命的な勞働者及び兵卒は、一の王政に代ふるに他の王政を以てしようとするブハナン（戰爭當時のロシア駐在英國大使）グチコフ、ミリウコフ等の一黨の鬪爭が或る短い、歷史上に稀れな潮時に彼等を助けたことに關して、狂喜したり幻想することなく、下劣なる××を完全に×××したのである。

かくの如くして、たゞかくの如くして事件がおこつたのである。眞理を怖れざる政治家、大膽冷靜に革命に於ける社會の諸力の相互關係を考察し、各々の所與の狀態をその所與の現實の獨創

性の立場からのみでなく、より深き推進力即ちロシア並に全世界に於けるプロレタリアート及びブルジョアジーの形容の相互關係の立場から批判を試みるところの政治家ばかりが、斯く考へ得るのである。

ペテルスブルグの勞働者及び兵卒、全ロシアの勞働者及び兵卒は自由のため、農民が土地を得るため、平和のため、帝國主義××に反對するために、我を忘れて××に突進した。英佛の帝國主義資本は、この虐殺を長引かせ且つ强烈にするために、宮廷の陰謀を計畫し、一味徒黨を作りミリウコフやグチコフを使嗾激勵し、プロレタリアの鬪爭がツアール政治に對して最初の一擊を加へた後に、直に權力を奪取し得るように、スツカリ用意してゐる政府を、前以て準備してゐたのである。

この政府は、決して個々の人物を偶然的に狩り集めたものでない。

それはロシアの政治的權力として立ち上つた新しい階級の代表者である。この階段は既に長く吾が國に經濟的に君臨してゐた資本家的地主及びブルジョアジーの階級であり、彼等は一九〇五—一九〇七年の革命時代並に一九〇七年—一九一四年の反動革命時代に、最後に一九一四—一九

一七年の戰爭に於て――この時ヨリ急速であつたが――非常に急速に自ら政治的に組織化し、地方自治、國民教育、種々の大會、議會（チューマ）、戰時工業委員會等を手中に收めたのである。この新階級は一九一七年以前に於て『殆んど完全に』指導的立場に立つてゐた。この故にこそ、ツァール政治を破壞し、ブルジョアジーのために坦々たる大道をきり開くためには、最初の一擊だけで充分であつたのである。異常な力の緊張を要求した帝國主義戰爭は、進步に遲れてゐるロシアの發展過程を促進し、『一擊を以て』（實際には外觀上のみの一擊を以て）イタリー、イギリス、フランスにすら追付き、一個の『聯合政府』、一個の『國民的』即ち帝國主義的××の指導、民衆に對する誤導を是認するところの）『議會的』政府を成立せしめたのである。

現在の戰爭の立場から見ると、この政府は根本に於て英佛といふ大金融商會の番頭に過ぎない。――この政府と並んで一の新しい、公的でない、まだ充分に發展してゐない、比較的に弱い勞働者政府が成立してゐる。それはプロレタリアートと都市農村に於ける貧民大衆との利益を表現するものである。この政府はペテルスブルグに於ける勞働者兵卒代表者ソヴィエットである。

吾々はマルクス主義的戰術を唯一の確實な基礎即ち事實の基礎の上に築かねばならない。而し

て以上述べたるものこそ、吾々ができ得る限りの客觀的精確さを以て、何よりも先づ確定せざるべからざる眞の政治狀態である。

ツァールの君主政治は打擊を被つた。しかし破滅してしまつてゐない。

帝國主義戰爭を『最後まで』遣らうとする此の十月黨的立憲民主黨的ブルジョア政府は、事實上、金融商會たる『英佛』の番頭に過ぎない。彼等が餘儀なく國民に向つて最大限の自由と特惠とを約束してゐるのは、この政府が國民に對する支配と戰爭延期の可能とを確保しようと仕組むが故に外ならない。

勞働者兵卒代表者ソヴィエットは平和とパンと自由とを希望する貧しき全大衆、即ち人口の十分の九の人々の利益を代表する。

この三つの力の鬪爭が今日おこつて居り、且つ革命の第一段階から第二段階への過渡を形づくつてゐるところの狀態を決定する。

ツァールの君主政治と眞に鬪爭する爲め、大ホラ吹きの自由主義者の言葉や約束のみでなく眞に自由を確保する爲めに、勞働者はこの新政府を支持してはならない。否、政府が勞働者を『支

持』せねばならぬ。何となれば自由の唯一の保障、ツァーリズムの徹底的打破の唯一の保障は、(一行略)勞働者兵卒代表ソヴィエットの任務、意義、權力の確立、擴大、發展に存してゐるからである。

すべてこの外のことは嘘僞りであり、自由主義者急進主義者の陣營の策士連の自己欺瞞である。勞働者を××せしめることを助けよ、もしくは少くとも妨害するな——これが行はるれば、ロシアに於ける自由は決して破られざるものとなり、××××は回復されざるものとなり、××國が確立するに至るのである。

かうしなければ、人民は欺かれてしまふ。約束は廉價である。約束は何物にも値しない。すべてのブルジョア策士連はあらゆるブルジョア革命に於て、色々の約束を以て人民をゴマかし愚鈍にしたのである。

吾が革命はブルジョア革命であるから、勞働者はブルジョアジーを支持しなければならない、——解黨派の陣營内の輕蔑すべき政治家はかく語つてゐる。

吾々マルクス主義者はいふ。吾が革命はブルジョア革命である。さればこそ勞働者は、人民に向つてブルジョア策士連の虚僞を暴露し、その言葉を信用しないように教へ、自分自身の力、自

分自身の組織、自分自身の結合、自分自身の××を信頼するよう教へねばならぬのである、と。

十月黨(オクトヴリスト)と立憲民主黨(カデット)の政府、グチコフとミリウコフの政府は、平和もパンも自由も與ふことはできない。——よし彼等がこれを正當だと考ふる場合に於ても。

平和——彼等はこれを與ふることができない。何となれば、それは彼等が戰爭政府であり、帝國主義的虐殺を繼續する政府であり、領土併合を欲求する政府だからである。彼等はアルメニヤ、ガリチヤ、トルコを併合し、コンスタンチノープルを奪取し、ポーランド、クールランド、リトヴィア其他を再び掠奪しようとしたツァールの政策を、一度も拒んだことがない。この政府は、手も足も英佛の帝國主義資本と結びついてゐる。ロシアの資本は、數百億ルーブルを放資してゐる『英佛』と名づくる世界商會の一支店に過ぎない。

パン——彼等はこれを與ふることができない。何となれば、彼等がブルジョア政府であるからである。高々、彼等はドイツに於けるが如く『獨創的に組織』された飢餓を人民に與ふるに過ぎないであらう。しかし人民は、飢餓を堪へ忍ぶことができない。人民は、パンが存在して居り、これを得るためには、資本と土地所有の神聖の前にも停止しない方法に依る外ないことを經驗す

るに至るであらう。しかり、眞に迅速に經驗するであらう。

自由――彼等はこれをも與ふることができない。何となれば、彼等は人民を怖れてゐる地主と資本家との政府であるからである。

この政府に對する吾々の緊急直接の態度から生ずる戰術上の任務については、吾人はこれを他の論文に於て論じよう。吾人はその論文に於て、眼前の瞬間の特質、革命の第一段階より第二段階に至る過程の特質が何れにあるかを論じ、また何故に標語卽ち今日の瞬間に於ける『目前の任務』が『勞働者よ、諸君は××に於てツアーリズムに對してプロレタリア的英雄主義、民衆の英雄主義の××××××。諸君は××の第二段階に於ける諸君の勝利を用意する爲めに、プロレタリア的民衆的團結の奇蹟を完成せねばならぬ』といふことに在らねばならぬかを示す積りである。吾人はこの論文では、革命の第一段階に於ける階級鬪爭と各階級の力の關係とを分析するに止めた。吾人は今一度、何人がこの革命に於てプロレタリアートの同盟者であるかといふ問題を取り扱はねばならぬ。

その同盟者は二つある。第一は人口中の廣大な、莫大な、壓倒的な大多數、卽ちロシアの半プ

ロレタリ的な、一部は小農に屬してゐるところの大衆である。この大衆は平和とパンと自由と土地とを必要としてゐる。この大衆はその生活條件上、最も適應し易きブルジョアジー、特に小ブルジョアジーの一定の感化の下に盲目的に立ち、ブルジョアジー及びプロレタリアートの中間に動搖する。グチコフ、ルヴォフ、ミリウコフ等の一黨が戰爭遂行に熱心なれば熱心なるほど、戰爭の敎訓は愈々酷烈となる。このことはこの大衆を無條件的にプロレタリアートの方へ近付かしめ、彼等を後者に追隨せしめる。今日、吾人は新制度下の自由と勞働者兵卒代表者ソヴィエットを利用しつつ、何よりも先づ、最もこの大衆を啓蒙し組織することを努めねばならない。農民代表者ソヴィエット――これらのものは最も緊急の任務に屬してゐる。吾人の努力は、單に農業勞働者が彼等自身のソヴィエットを形成するといふ事のみならず、更に土地を所有せざる貧農が富農と離れて組織を作るといふ事にも向けられねばならぬ。今日必要となつてゐる組織の特別の任務と特別の形態とについては、この次の書翰で述べることにする。

ロシアのプロレタリアートの第二の同盟者はすべての交戰國、そして概してすべての國々のプロレタリアートである。このことは戰爭のために、一時毫も注目されなかつた。ロシアに於ける

プレハノフ、グヴォズデフ、ボトレソフの如く、ヨーロッパに於ても亦ブルジョアジーの方へなだれ込んで行つたところの排外社會主義者たちは、戰爭の名に於て餘りに屢々喋り立てた。しかしプロレタリアートを彼等の感化から解放することは、帝國主義戰爭が進めば進むほど、各月毎に進んでゐる。ロシア革命は不可避的に、この行程を非常の程度に於て促進するであらう。

ロシアのプロレタリアートは、この二つの同盟者と共に、今日の過渡的瞬間の特質を利用し。先づ民主的共和國の獲得と農民の地主に對する完全な勝利を、續いて、戰爭のために苦んでゐる人民に平和とパンと自由とを與へ得るところの社會主義に向つて急ぐであらうし、又、急ぐことができるのである。

（第二篇）　プロレタリアの民兵について

國外よりの書翰の　三

（一九一七年三月十一日、スキスよりの書翰）

チヘーゼの動搖してゐる戰術に關して私が昨日あたへた斷案は、本日三月十日(廿三日)二つの事實によつて完全に證據だてられた。その一つは、ストックホルム電報としてフランクフルト新聞に載つてゐるところの、吾々の黨卽ちペテルスブルグのロシア社會民主勞働黨の中央委員會の宣言からの拔萃である。もつともその文書には、グチコフ政府を支持するか、或はそれと戰つてこれを倒すかについては一言も書いてない。それで勞働者と兵卒とに向つては、勞働者代表ソヴィエットを組織し、且つツァーリズムに對する鬪爭のため、八時制のため、(一行略)——就中盜奪的戰爭の中止のために、このソヴィエットへ代表者を選出すべきことを訴へてゐる。平和のために有らゆる交戰國のプロレタリアの接觸が缺くべからざるものであるといふ、該宣言中の吾が中央委員會の全く正當な思想は、特に重要であり、緊切なるものである。

ブルジョア政府の商議から一の平和を期待しようと欲するのは、自己欺瞞であり、民衆欺瞞であらう。

第二の文書も同じくストックホルム電報として、他の獨逸の新聞フオッシッシェ・ツィイツングに記載されてゐる。卽ち三月二日(十五日)に催されたところの、チヘーゼの議會分派、勞働者分派、

並に十五勞働團體の代表者の合同會議、並に――その翌日發表された檄文が報道せられてゐる。その十一の要求條項のうち、電報の通信はたゞ次の三ケ條のみを述べてゐる。第一――共和國の要求、第七――平和と即時平和談判との要求、第三――『ロシア勞働者階級の代表者の政府に對する充分の參加』

これらの條項が正確に繰返されたものであつたら、何故ブルジョアジーがあれまでにチヘーゼを賞讃するのかゞ理解出來る。また何故、私が上に引用した通りイギリスのグチコフびいきが『タイムス』紙上で賞讃の辭を並べてゐるか、引きつゞいてフランスのグチコフ一派が何故『タン』紙上で賞讃してゐるかも理解される。このフランスの大富豪と帝國主義者との機關紙は、二月廿二日、次の如き記事を載せてゐる。『諸々の勞働者黨の指導者達、ことにチヘーゼ氏は、勞働者階級の要求を緩和するために、彼等の全勢力を向けてゐる』

グチコフ＝ミリウコフ政府へ勞働者が『參加』するといふ要求は、理論的にも實際的にも實に氣違染みたことである。少數派として政府に參加すれば、彼等は彼等の影響をも持ち得ない。ブルジョアと同じ協力をすることは不可能である。何となれば、戰爭繼續の要求は、平和締結及び講

和談判採用の要求を調和することが出來ないからである。また政府に於ける多數派を形成せんためには、グチコフ＝ミリウコフ政府を顚覆する力を持たなければならない。實際、『參加』の要求は、まちがつたルイ・ブラン思想である。それは階級鬪爭とその眞の先行條件との放棄であり、勞働者の間に幻想を目醒す空虛な、響きの良い文句にすぎない。此の要求は、實際に於て、ミリウコフやケレンスキーとの談判のために、貴重な時間を浪費することを意味する。かゝる浪費は眞に革命的な階級力の創造のため、民兵を組織するために、避けなければならないのである。民兵こそは、人口の絕對多數を占める有らゆる貧困者の層に信賴の念を起させることが出來、彼等自身の自主的組織として、パンと平和と自由のための彼等の鬪爭を助けることが出來るのである。

チヘーゼ並びに彼の團體(私は組織委員會の一黨について云つてゐるのではない。なぜなら、私の手のとどく範圍内にある資料には一言だつて組織委員會のことが書いてないから)の檄文のなかの此の過失は、新聞紙の報告するやうにチヘーゼの無二の親友――スコベレフが、三月二日(十五日)の會議に於いて、次のことを云はなければならなかつたといふことによつて、益々奇妙なものになる。『ロシアは第二の、眞の眞實の文字どほりに生々した)革命の前夜にある。』

これは一の認識であるが、スコベレフとチヘーゼはこの認識に一致する實際的結論を引き出すことを忘れてしまつてゐる。私は此の呪はれた遠隔の地に居て、この第二の革命が如何なる程度に近づいて來てゐるかを判斷することが出來ない。スコベレフはその現場の地位に居る。寧ろ、彼がこれに關する見解を作り上ぐべき地位に居る。故に私は、その解決に缺くべからざる具體的基礎を持つてゐないやうな問題を取扱つてゐるのではない。たゞ私は、私の第一の報告に於て、二月—三月革命は革命の第一段階に過ぎなかつたといふ、事實的結論を下したことが、今や一人の『無關係な證人』即ち吾々の黨に屬してゐないスコベレフのやうな人間によつて確認されたことを力說しておけばよいのである。ロシアは獨特の歷史的瞬間を——革命の次の段階への、スコベレフの表現に從へば『第二の革命』への、過渡の瞬間を體驗してゐる。

吾々がマルクス主義者たらんとし、全世界の××を學ばんとするならば、吾々は正にこの過渡期の特質がいづこに存し、またその客觀的特殊性から如何なる戰術がひき出されるかを理解することを試みなければならない。

この狀態の特殊性は、次に述べる最も重要な三つの事情があつたためにグチコフ＝ミリウコフ

政府が、異常に容易に最初の勝利を獲得したことに存する。一、英佛金融資本及びその代理人の支持。二、最高軍閥の一部分による支持。三、ゼムストウォ、市町村會、國會、戰時工業委員會等の諸制度のうちに完成してゐたロシアの全ブルジョア階級の組織。

グチコフ政府はいまや極端に困厄してゐる。彼は資本の利益關係と相結んでゐるので一方に於て、盜奪的世界戰爭を繼續し、資本と地主との巨大な利潤を保護し、且つ君主政體を復興することを餘議なくされてゐる。他方に於て、その革命的起源とツァーリズムからデモクラシーの鋭い轉向の必然性とは、特に此の飢ゑ且つ平和を要求せる大衆の壓迫の下に於て、グチコフ政府をして迷亂せしめ、——限りない虛僞に、遁辭に、延期に、大きな布告と約束とに(約束するだけなら、恐ろしく狂的な物價騰貴の時代に於ても、至極低廉である)、矛盾に、また一度與へても直ちに撤回するやうな讓步に、導いてゐる。

或る事情の下に於ては、新政府はロシアの全ブルジョア階級とブルジョア知識階級との組織的能力に信賴して、幾分その破產を延期し得るであらう。然し此の場合に於ても、破滅から免れることは出來ないだらう。何故なら、ブルジョア的狀態の基礎を放棄することなく、またロシア及び世

界の無産階級の偉大な英雄的勇氣に訴ふることなしには、(一行略)怪物から逃がれることは、不可能であるから。(五行略)

如何なる場合に於ても――今日『第二の革命』がペテルスブルグで既に進行してゐると否とに拘らず(私は、革命の成熟の具體的速度を外國に居て測定するといふ考への無謀であることを既に言つた)、或はそれがこゝ少時延ばされてゐると否とを問はず、或はロシアの二三の地方で既に始つてゐると否とを問はず(二三の證據がそれを示してゐる)――如何なる場合に於ても、この新しい革命の前、途中、後の各瞬間に於ける標語は、プロレタリアの組織といふことでなければならない。

同志よ、勞働者よ！　君等は昨日、(半行略)プロレタリア的英雄行動の奇蹟を示した。君等は直ぐ近い未來に(おそらく私がこの行を書いてゐる時すでに)(一行略)同一の奇蹟的英雄行動を今一度示さなければならぬだらう。君等はプロレタリアの組織性の奇蹟を成就することなしにはこの次の「眞の××」に於て永續的の勝利を得ることはできないだらう。

當面のスローガンは組織である。然しかく要求することを以て事足れりとなすならば、未だ何

事も語られざるに等しいであらう。なぜなら一方に於て、組織は常に必要なのであり、且又單に『大衆の組織』の必要を論證するだけでは、吾人を何等啓發するものでないからである。また他方に於てかく叫ぶにとゞまる者は自由主義者を支持するに過ぎない者であらう。なぜなら自由主義者は勞働者といふものは通常の『合法的な』(『正常な』ブルジョア社會の立場から合法的な)組織形態を超えてはならず、隨つてまた勞働者は彼等の政黨、勞働組合團體、消費組合等、等、の名簿に名を載せるだけにとゞまらなければならない、といふ確信を以て彼等の支配を强固ならしめようとしてゐるものだからである。

勞働者はその階級本能をもつて、××期においてたゞに尋常の組織のみならず、全く別の組織が必要だといふことを理解した。彼等は、一九〇五年の吾々の革命及び一八七一年のパリ・コンミュンの經驗が示した道を、實に正確に歩いた。彼等は勞働者代表のソヴィエットを作つた。彼等は兵卒代表を、次に農業賃銀勞働者の代表を、そして最後に(種々の形態に於て)全貧農階級の代表を引寄せながら、このソヴィエットに一層の發展と、擴張と、確固さとをあたへはじめた。

例外なくロシアの有らゆる領域に、例外なくプロレタリアと半プロレタリアとの有らゆる職業

及び層のためにまた經濟的には不正確ではあるが一般的な表現を用ゐるなら、即ち有らゆる勞働者と被搾取者とのために此の組織を造ること、――それは此の瞬間に於ける第一の、最も重要な、そして引延すことの出來ない任務である。私がこゝに豫め指摘しておきたいと思ふのは、吾々の黨が全農民大衆に向つて（新しい型のプロレタリアの組織のうちに於ける黨の特殊の役割に關しては、次の手紙の一つで語りたいと思ふ）富有な農民を除外し、農業賃銀勞働者及び自分の穀物を賣らない小農の別箇のソヴィエットを組織することを、特に提唱せねばならぬ事である。此の條件なくして、眞にプロレタリア的な政策を營むことは不可能である。（註一）また數百萬の人間の生死を決する最も重要な實際問題、即ち食料を正しく分配する問題、食料の生産の增加、等、も解決出來ない。

今や次の問題がおこる。即ち勞働者代表ソヴィエットの任務は何であるか。それは『××××であり、××××××であると見るべきである』と、吾々は一九一五年十月十三日、ジェネバより發行した『ゾチアル・デモクラット』の第四十七號に書いた。

此の、一八七一年のコンミュン及び一九〇五年のロシア革命の經驗から引出された理論的原理

は、目下の段階、即ちロシアに於ける現在の革命の實際的に指示したところに從つて、具體的に發展せしめねばならない。

吾々は一個の××的な力を必要とする。吾々は（一定の過渡期の間）一個の××を必要とする。この點に於て吾々は無政府主義者と異る。××的マルクス主義者と無政府主義者との差異は、前者が集中された大工業に贊成し、後者が分散した小工業に贊成するといふ點のみに存するのでない。否、差異は正に力の問題、國家の問題にあるのである。即ち吾々は社會主義のための闘爭に於て國家の××的形態を××的に利用することに贊成するに反し、無政府主義者は此の利用に反對してゐる。

吾々は一の國家を必要とする。然し吾々はブルジョアジーが到る所で――立憲王國から民主共和國に至るまで――作つてゐるような××を心要とするのでない。此の點に於て吾々はパリ・コンミュンの教訓及びマルクスとエンゲルスが吾々に與へたこの教訓の解剖を曲解し或は忘却した日和見主義者、カウツキー一派や古い社會主義諸黨、から差別されるものである。（註二）

吾々は一の國家を必要とする。しかしブルジョアジーが××、××、官僚主義、といふような、

民衆から懸け離れた(一行略)××でない。すべてのブルジョア革命は此の國家機構を或る政黨の手から他の政黨の手に移したにすぎない。

然し無産階級が此の所與の革命の成果を擁護し、發展し、且つ平和とパンと自由とを獲得せんと思ふならば、――マルクスが表現したやうに、此の『完成した』××××を『×××』なければならない。(二行略)無産階級は、一八七一年のパリ・コンミュン及び一九〇五年のロシア革命によつて示された道を踏襲しつゝ、階級意識ある被搾取者の有らゆる層を組織し且つ××せねばならぬ。(二行略)

ロシアの勞働者は、一九一七年二月、革命の第一段階に於て、既に此の道に踏み入つた。目下の全任務は、如何にして此の道が創造されるかを明瞭に指示し、勇敢に、確實に、頑固にその道を進行することである。

英佛露の資本家はニコラス二世を廢位させるに『とゞめよう』と思つた。若くは、おそらく彼を一寸ばかり『恐れさせ』たいと思つたにすぎない。(一行略)

勞働者は更に先へ進んだ。(十二字略)そして今や、英佛の資本家ばかりではなく、獨逸の資本

家もまた、例へばロシアの兵卒がその士官を、――ネペニン提督のやうな――グチコフとミリウコフとの追從者を、射殺したことを聞いて、怒りと驚きとで叫びまはつてゐる。

私は勞働者が此の古い××××××したと云つた。より正確に云へば、彼等はそれを×××はじめたのである。

具體的の一例をあげよう。(二行略)例へばペテルスブルグと多くの他の場所に於ける如くである。グチコフとミリコフの政府は、(十六字略)ブルジョアジーから指令され且つ民衆から分離し且つ民衆に對立してゐるところの、かの××された人間の特殊な組織、即ち××を復舊することなくして、權力を維持し得ないであらう。それは天日を見るより明らかである。

他方新政府は革命的民衆と清算しなければならない。それを延期せんがために、民衆をなまなかな讓歩や約束で胡麻化さねばならない。かくして新政府は、當座の藥を用ゐてゐる。即ち選擧による官憲からなる『人民の警察』を設立してゐる。(それは恐ろしく信用を喚起するやうな、恐ろしく民主主義的な、革命的な、美しい響きがする!) 然し……然し! 第一に、彼等は此の民警を、ゼムストウオと都市自治體との統制の下においてゐる。即ち地主と資本家との統制の下に

血のニコラスと獄丁ストリビンとの法律に從つて選ばれた機關の統制の下においてある。……第二に、彼等は民警を『人民の警察』と呼んで民衆を欺いてゐる。實際に於いては、全民衆は此の民警に參加することを要求されてゐない。傭主と資本家とは、雇人や勞働者がこの公けの服務、即ち民警に捧げる時間に對して、通常の方法で仕拂ふことを義務づけられては居ない。

こゝに困難が横たはつてゐる。かくの如き方法によつてグチコケとミリウコフの政府、即ち地主と資本家の政府は『人民の警察』を紙上にとゞめ、一方、實際に於てはブルジョア的な、民衆を敵とする民警がコツソリと回復され、即ち最初は『八千の學生と教授』(外國新聞は現在のペテルスプルグの民警をかくの如く記述してゐる)を以て――そしてそれも明らかに一つの芝居にすぎない――後には次第に、古いそして新しい警察を以て代へようと、企んでゐるのである。

警察が再び設立されるのを妨げなければならない! 地方の權力を手から放してはならない! 眞に全民衆を包括し、無産階級によつて導かれる民警が設立されねばならない!――これが今日の任務である。これが現下のスローガンである。この任務、このスローガンはたゞに、將來の階級鬪爭、將來の革命運動の正當に理解された利害關係に相一致するばかりではない。更に資本家

と地主との有ゆる守備隊、即ち彼等がよつてもつて民衆に對する權力を獲得せんと企てる警察、憲兵、曹長を憎まずには居られないところの有らゆる勞働者、有らゆる農民、勞務し搾取されつつある有らゆる人間の民主主義的本能にも、また相一致するのである。

グチコフとミリウコフ、地主と資本家とは如何なる警察を必要とするのか? それはツァールの帝政の時代にあつたのと同一のものである。世界の有らゆるブルジョア共和國並びにブルジョア――民主主義共和國は、短い革命の時期が冷めた後、かゝる種類の警察――民衆から隔離され、且つ民衆に對立させられ、甲或は乙のブルジョアジーに隷屬してゐる武裝した人間の特殊な組織を、自分のお膝下に導き入れ、或は再建した。

吾々無産階級、有らゆる勞務者は如何なる民警を必要とするのか?――吾々は眞の『民衆』の警察を必要とする。それは第一に、文字通りに全人民から、即ち成年に達した有らゆる男女兩性の市民から成立する。第二に國民軍の機能、警察の機能、國家の制度と國家の權限とに關する重要にして根本的なる機關の機能、を結合したものである。

私はこの原則を明らかにせんがために、純粹に標本的な一例を引用する。プロレタリアの民警

のために一種の『プラン』を立てるといふ考は、無意味なものであることは言ふをまたない。若し勞働者と全民衆とが、眞に大衆として、實際的に着手するなら、彼等は有らゆる理論家より百倍も良いものを成就するであらう、故に私は『プラン』を提供するのではなく、ただ私の考へを説明したいと思ふのである。

ペテルスブルグには大約二百萬の住民が居る。彼等のうちの半分以上は十五歳から六十五歳の間である。半分――一百萬人をとつてみよう。更に此の數の四分の一が病氣等の理由から缺けるか、或は根據ある理由から現在公の服務に參加出來ない人々である、といふ假定をさへしてみる。あとには七十五萬人殘る。彼等がたとへば十四日目に一度民警に働き、そして此の時間を彼等の傭主から支拂はれるとしたら、――五萬人の軍隊が編成されるわけである。

それが吾々の必要とする『國家』の體型である。

かゝる民警が、單に紙の上ばかりではなく、實際に於て『人民の警察』であらう。

吾々は、特殊な警察も特殊な、民衆から隔離した軍隊も成立し得ないまうにするために、かゝる道を進まなければならない。

かゝる民警は九十五パーセントの勞働者と農民とから成立するであらう。それは事實民衆の絶對多數の意志と理性と勢力の權力を代表するであらう。かゝる民警こそ文字通りに全民衆を××し且つ軍隊的に訓練し、そして有らゆる復辟の計企とツァールの代理人の有らゆる陰謀とを有效に――グチコフとミリウコフが願つて居るやうにではなく――挫折させるであらう。かゝる民警こそ『勞働者及び兵卒代表ソウィエット』を成就する機關たり得るであらう。また人民の絶對的尊敬と最も多くの信用とを受けるであらう。何故なら、かゝる民警こそ文字通りに全民衆を包括する組織であるから、かゝる民警こそ、資本家による民衆の奴隷化を隱さんとし然も實際に於てはたゞ民衆を嘲弄するところの、奇麗な標札から出來てゐるにすぎない民主主義を、――有らゆる國家の職務に對する共同勞働のための、大衆の眞の教育に變革するものであらう。かゝる民警こそ、成長しつゝある世代を政治的生活に導き入れ、言葉のみによつてゞはなく、仕事をとほして教育するであらう。かゝる民警こそ、『治安警察』の管轄や、衞生監督等に屬する有らゆる機能を遂行するであらう。また文字通りに有らゆる成長した婦人を、此の仕事に關係させるであらう。何となれば、婦人を公的服務に、民警に、また政治的生活に關係せしめることなく、また彼女等

を臺所の雰圍氣や神經を鈍らせる世帶の雰圍氣から引き出すことなしに、――眞の自由を確立することは不可能であり、社會主義は云ふも愚か民主主義を現實することも不可能である。

かゝる民警はプロレタリアートの民警であるであらう。何となれば、工業勞働者及び都市勞働者は、恰も彼等が一九〇五年から一九〇七年までの間でも、また一九一七年にでも、民衆の全革命に於て指導的地位を獲得したと同じやうに、民警に關しても、自然的に、不可避的に、無方針の無產者大衆に對し指導的影響をあたへるであらうからである。

かゝる民警こそ、絕對的秩序と遠慮なき友愛的訓練とを與へるであらう、同時にまたかゝる民警は、今やあらゆる交戰國を襲つてゐる恐慌に當前して、この恐慌を眞に民主主義的に征服し、パンの分配を正確且つ迅速に實行し、『一般的勞働義務』なるものを實現する可能性を與へるであらう。この『一般的勞働義務』とは、フランス人が『公民動員』と稱し、ドイツ人が『公民義務』と稱してゐるものであつて、これなくしては盜奪的戰爭によつて受けた傷を醫することが出來ないところのものである。

ロシアの無產階級は、結局單なる政治的民主主義的改革の大規模な約束を受取る目的のために

のみ、彼の血を流したのだ、と考ふべきであらうか？　また有らゆる勞働者が卽刻彼の生活に於ける或る程度の改善を認め得且つ感じるとか、有らゆる家族がパンを持つとか、有らゆる子供が一杯の良きミルクを持つとか、すべての子供がミルクを與へられるといふ譯にはゆかないから富有な家庭のどの成年者もミルクを樂しむことを敢てしないとか、ツァールと貴族によつて放棄されてゐる宮殿並びに立派な住宅が空つぽではなく、病人や不幸な者の舍宅になるとか、といふことを無產階級が要求し且つ成就し得ないといふことが、考へ得べきことであらうか？　然し男子と同じく婦人も參加する、一般的な民警を除いて、誰がこの手段方法を實行し得るであらうか？

此の手段は未だ社會主義ではない。それは消費の規定に觸れてゐるが、生產の新組織には觸れてゐない。この手段は未だ『無產階級の獨裁』ではなく、『無產階級と貧農との革命的―民主主義的獨裁』であらう。然しこの手段の分類如何は、今日は問題にならない。若し吾々が複雜な、生命の躍動する、そして急速に現れてくる實際的な革命の任務を、窮屈に把捉された『理論』の絕對絕命の境遇に置かんとし、理論のうちに先づ行動への敎示を見ないならば、それは最大の過であらう。（五行略）

たゞ實踐のみがかゝる疑問に答へ得るだけである。然し吾々が確實に知り、また吾々が黨として大衆に說明しなければならないのは、一方では、未曾有の恐慌と飢餓と無數の苦痛とを喚起してゐる、恐るべき壓力の歷史的衝進力が存在してゐるといふ狀態である。此の衝進力といふのは戰爭である。交戰せる兩方の諸政黨の資本家は掠奪の目的のために戰爭を行つてゐるのである。此の『衝進力』は全世界の富有な、自由な、開化された國民を、斷崖の緣に持つて來た。彼は諸國民に迫つて、その有らゆるエネルギーを極度に緊張せしめてゐる。また彼等を堪へ難き狀態にもたらしてゐる。彼は何等かの『理論』の實現を第一義の問題とはせずして――これについては問題がない、マルクスは何時も此の幻想に對して社會主義者を警告してゐた――極端に實際的に可能な政策の實施を問題としてゐるのである。何となれば、かゝる政策がなければ飢餓のために幾百萬人が沒落、しかり卽時に沒落することを避け得ないからである。（以下一頁略）

今や吾々は革命の此段階から第二段階への、ツァーリズムに對する戰爭からグチコフ―ミリウコフの卽ち農業的及び資本家的帝國主義に對する戰爭への、過渡を體驗してゐる。組織的任務が重要となつてゐる。それは然し、單なる形式的組織に對する形式的仕事の意義に於てゞはなく、

被壓迫階級の最も廣大の大衆を組織のうちへ引き寄せる意味に於てゞあり、また此の組織自體が軍事的、國家的、國民經濟的任務の體現となるといふ意味に於てゞある。

無產階級は樣々の道から此の獨特の任務へむかつて近寄つた。ロシアの二三の地方では、二月（三月）革命は殆んど全部の權力を彼の掌中にあたへてゐる、他の地方ではプロレタリアの民警は恐らく獨自の力によつて作られ且つ擴大されるであらう。また他の場所では、多分平等な普通選擧の基礎の上に市會及びゼムストヴォに於て卽時の選擧を行はしめ、以て此等の機關を革命的中心に變へようと試みられるだらう。――そしてプロレタリア的組織性の膨張、兵士の勞働者への接近、農民階級に於ける運動、及びグチコフとミリウコフの戰爭帝國主義的政府の政策に對する失望が、勞働者代表ソヴィエットの『政府』によつて政府が置きかへられるやうな瞬間を、導いて來るであらう。

吾々が更に忘れてならないのは、ペテルスブルグから最も近い所に吾々が最も進步し、實際上最も共和國的な國の一つ――フィンランド――を持つてゐるといふことである。其の國は一九〇五年から一九一七年まで、ロシアの革命的鬪爭の保護のもとに、比較的平和な道でデモクラシーを

發達させ、そして國民の大多數を社會主義の味方に引き入れた。

ロシアの無產階級はフィンランド共和國に完全な自由を與へ、遂にはロシアから分離する權利を與へるであらう。(社會民主主義者は今や全く分離の權利を與へ得ないであらう。カデット黨員ロヂスチェフがロシア人の特權を保持しようとする不埒な努力を眼前に見ながら、彼等は此問題について尙ほ動搖してゐる。)——そして此の分離の權利を認むることによつてこそ、全ロシアのプロレタリア的建設に際して、フィンランド勞働者の新しい信賴と友愛的援助とをかち得るのである。困難な、そして大きな事件に於て過失は不可避である。——吾々といへどもこれを避けることは出來ないであらう。——フィンランドの勞働者は優秀な組織者である。彼等は此の範圍で吾々を助けるであらう。彼等は社會主義的共和國の建設を彼等の方法で促進してくれるであらう。(五行略)

チューリッヒ、一九一七年三月十一日(廿四日)

(註一)農村に於ては貧農階級及び一部の中農階級を獲得するための鬪爭が熾烈であらう。富裕な農民に足場を置いてゐる地主は、此等の層をブルジョア階級に隸屬させようと努力してゐるだらう。吾々は、農業賃銀勞働者並びに農村貧民に支持され、此等の中小農と都市無產階級との間に緊密な同盟を致さなければならない

(註二)次の手紙の一つか或は特別の論文のうちで、私は徹底的に此の解剖を取扱ふであらう。此解剖はマルクスの『フランスの階級鬪爭』、エンゲルスが此の著作の第三版に書いた序文、マルクスの手紙(一八七一年四月十二日)及びエンゲルスの手紙(一八七五年三月廿八日)のなかに既に與へられてゐる。私は更に所謂『國家の破壞』の問題に於て、カウツキーがパンネケツクトとの論戰のなかで一九一二年に犯したところの、マルクス主義の絕對的曲解を吟味するであらう。

（第三篇）

如何にして平和を強要するか？

國外よりの書翰の四

（一九一七年三月十二日、スキスよりの書翰）

丁度、今、私は『新チューリッヒ新聞』(三月二十五日)で、次の報知を齎らしたベルリン電報を讀んだ。

『瑞西からの報道に依れば、マキシム・ゴルキイは政府及び執行委員會に情熱的な祝詞を寄せた。彼は在來の反動に對する國民の勝利を祝し、ロシアのあらゆる息子たちに、新しいロシア國家の建設を助けることを要求した。同時に彼は政府に向つて、平和の締結を以て其解放事業を飾るべきことを要求した。如何なる代價を拂つても、平和をして有名無實であらしめてはならぬ。ロシアは他のものよりも機會が少くても、あらゆる代價を拂つて平和のために努力すべきである。それはロシアに、地球上の他の國民と共に名譽ある存在をなさしむる可能性を與ふべき平和でなければならぬ。人間の血は既に充分に流された。迅速な平和を齎らすことが成功し得べきものなれば、新政府は此最大の貢献をロシアに於てのみならず、全世界に於ても果さねばならぬ。』

一般に流布してゐる小ブルジョア的偏見を滿喫してゐる此書翰を讀んだ人は、苦々しい感情に打たれるだらう。余はカプリ島にゴルキイと會見した際、彼に屢々警告し、彼の政治的誤謬を非難

した。ゴルキイは眞似のできぬ彼の可愛い笑顔と眞心からの説明とを以て次のように此非難を巧みにはづすのが常であつた。『僕は僕が拙惡なマルクス主義者であることを知つてゐる。しかし――我々藝術家はみんな計算も碌にできない人間たちだ。』かくの如き説明を征服することは實に困難なことである。

ゴルキイが莫大な藝術的天分を持つて居り、國際プロレタリア運動に多大の貢献を齎らしてきたし、將來も齎らすであらうことは、毫も疑をいれない所である。

しかしゴルキイは何故に政治に手に觸れるのであらうか？

私は考へる。ゴルキイの書翰は小ブルジョアのみならず、彼の感化の下にある勞働者の一部の間に異常に流布してゐる偏見を表現してゐる。我が黨のあらゆる力、階級意識ある勞働者のあらゆる努力は、あらゆる方面に於て、かくの如き偏見を頑强に征服することに向けられねばならない。

ツァールの政府は今日の戰爭を開始し、且つこれを擴大し、弱小民族を掠奪し窒息せしむるための帝國主義的掠奪戰爭たらしめたのである。グチコフ及びミリウコフの政府は一の地主的資本家的政府であつて、この寸分も違つた所のない戰爭を繼續することを餘儀なくされ、且つこれを繼

續しようと欲してゐる。此政府に向つて一の民主的平和を結べといふ要求を提出することは、妓樓に遊蕩する地主に向つて德行と謙讓の人であれと要求すると同じことである。

吾人は吾人の思想をなほ精密に説明しようと思ふ。

帝國主義とは何であるか？

余は余の小冊子『資本主義の最後の段階としての帝國主義』――革命以前に書肆パルスに渡し、雜誌『レトピス』に公表された――のなかで此問題を次の如く答へておいた。

『帝國主義は一發展段階に於ける資本主義である。この發展段階に於ては、獨占と金融資本との支配が確立し、資本の輸出が卓越した意義を獲得し、國際トラストの間に世界を分配することが始まるに至り、最大の資本主義國に於ける地球上の全土の分配が既に完成してゐる。』

基本的事實となつてゐるものは、資本主義が莫大の量に達してゐる事である。最大の資本家（カルテル、シンヂケート、トラスト）の極めて少數の連中が數十億の金を以て働き、彼等仲間の間に全世界を分配してゐる。全地球は既に分配されてしまつてゐる。戰爭は二個の强大なる豪富者群、卽ち英佛及びドイツの豪富者群の間の衝突から惹き起されたものである。――その原因は世

界の新分割といふことに存してゐる。

イギリス及びフランスの資本家群は、何よりもドイツを掠奪して其のすべての植民地を奪ひ(ドイツの植民地は今日殆んどすべて奪はれてゐる)、更にトルコを奪はんと欲してゐる。

ドイツの資本家群はトルコを奪ひ、近隣の弱小國家(ベルギー、セルビヤ、ルーマニヤ)を征服して植民地の損失を差引勘定しようとしてゐる。これは赤裸の眞理である。資本家は單純な民衆を愚鈍にしておくために、あらゆる可能なるブルジョア的欺偽を以て、例へば『解放戰爭』『國民的戰爭』……『正と義との戰爭』といふが如き文句、その他、これに類似する愚にも付かぬことを並べて、以上の眞理を隱蔽しようとしてゐる。

ロシアは彼れ自身の金を以て戰爭をしてゐるのでない。ロシアの資本は、イギリス及びフランスの資本の一部である。ロシアはアルメニヤ、トルコ、ガリシヤを掠奪するために此戰爭をやつてゐるのである。

グチコフ、ルヴォフ、ミリウコフ等、今日の我國の大臣は決して偶然の人物ではない。彼等は地主と資本家との階級全體の代表者であり、指導者である。彼等は資本の利益と結び付いてゐる。

人間が自分の毛髪を拔き去ることができないように、資本家は自己の利益を斷念し得るものではない。

第二にグチコフ、ミリウコフの一黨はイギリス及びフランスの資本と結び付いてゐる。彼等は外國の物資を以て戰爭を行つてゐる。彼等は其借入れた數十億に對し、年利として數千萬を支拂ふ義務を負ひ、この貢物をロシアの勞働者及び農民に押しつけてゐる。

第三にグチコフ、ミリウコフの一黨は、掠奪的な戰爭目的のためにイギリス、フランス、日本、イタリー其他の資本家群と直接に締結した條約の基礎の上に結び付いてゐる。これらの條約はツァールのニコラス二世が締結したものである。グチコフ、ミリウコフの一黨は、權力を自己の手中に握るために、ツァールの帝政に對する勞働者の鬪爭を利用した。しかし彼等はツァールの締結した諸條約はこれを確認してゐるのである。

グチコフ、ミリウコフ政府は、ペテルスブルグ電報局が三月二十日に諸外國に電報を以て報告をした所の宣言を以て、この確認をした。『政府(グチコフ及びミリウコフ)は、吾人を他の列强と結びつける諸條約を承認する』といふ文句が此宣言の中に在る。新外務大臣も同じことを外國に於

けるロシアの使臣に電報を以て宣言した。

すべて是等の條約は秘密條約である。グチコフ、ミリウコフ一黨は、二つの理由から此秘密條約を公表することを欲しなかつた。第一は掠奪戰爭を欲しない國民を怖れたことである。第二は彼等が是等の秘密條約を必要としてゐるイギリス及びフランスの資本の利益と結合してゐるからである。しかし新聞を讀み且つ了解するほどの人は、これらの條約が、支那に對する掠奪、ペルシヤ、アルメニヤ、トルコ(コンスタンチノープル)ガリシヤに對するロシアの掠奪、アルバニヤに對するイタリーの掠奪、トルコ、ドイツ植民地に對するフランス及びイギリスの掠奪等に關係してゐることを知つてゐる。

この故に、グチコフ、ミリウコフ政府に向つて、一の高尚な民主的な平和を出來得る限り速かに締結せよと要求するのは、人の善い村の和尚が地主や商人に向つて——『神樣の訓戒』に從つて生活し、其隣人を愛し、左の頰を打たれたならば右の頰をも差し出せと要求すると略ゞ同じである。地主と商人とは說敎を聽くけれども、民衆を壓迫し掠奪することは遣り續け、和尚に向つては、彼が農民たちを慰めたり安心させたりする藝術のために最大の褒美を與れてやるのである。

純粹の帝國主義戰爭に際して美しい平和演說をブルジョア政府に向ける總ての人々は、——彼等がそれを意識してゐると否とに拘らず、この村の和尚と全く同じ役割を演ずるものである。ブルジョア政府は屢々單純にこれらの演說を聞くことを拒み、これを禁じたりさへする。又ブルジョア政府は、屢々これらの演說を許し、且つ我々こそ一時も早く『正しい』平和を締結しようとして戰つて居る唯一のものであり、たゞ敵がこれを妨げるのだなどと言つて、左派や右派に向つて約束を連發するのである。平和の演說、ブルジョア政府へ向つての訴へ、これらのものは、實際に於て、たゞ民衆を欺くものに過ぎない。

植民地、販賣市場、租借地の分割のために地球を蔽ふに血潮の河を以てしてゐるブルジョアジーは、『高尚』な平和を締結し得るものでない。彼等はたゞ醜惡なる平和、卽ち奪ひ合ひたる獲物の分配、トルコや植民地の分配を確定する平和を締結することができるにすぎない。

更にグチコフ、ミリウコフ政府は、彼等が今日、全體の獲物の中から『單に』アルメニヤやガリシヤの一部を獲得し得るに止まるが如き瞬間に於て、平和を締結することは思ひも寄らぬことである。しかり彼等はコンスタンチノープルを掠奪せんと欲し、嘗つてツァーリズムの時代に無慘に

壓迫してゐたポーランドを更にドイツ人の手より奪還せんと欲してゐる。更にグチコフ、ミリウコフ政府は、根本から見れば、イギリス及びフランスの資本の代理人たるに過ぎぬ。イギリス及びフランスの資本はドイツより奪ひたる殖民地をそのまゝに保有し、その上にドイツを强制してベルギー及びフランスの一部を返還せしめんと欲してゐる。イギリス及びフランスの資本はニコラス二世を放逐するについてグチコフ及びミリウコフを助けたが、その代りに彼等をしてドイツを『征服』することを助けしめてゐる。

かくて何がおこるべきであるか？

平和を强要する爲めには(特に眞に民主的な、眞に高尚なる平和を强要するためには)、×××が××や××の手にでなく、勞働者と貧農の手にあることが必要である。地主及び資本家は人口の極小の少數者である。人の知る如く、資本家は戰爭について數々の惡事を行ふてゐる。

勞働者と貧農とは人口中の壓倒的多數を占めてゐる。(三行略)

若しロシアに於ける國家權力が勞働者、兵卒、農民ソヴィエットの手に屬するに至るならば、このソヴィエット及びこれによりて選出せられた全露ソヴィエットは、確かに、我が黨(ロシア社會民

主勞働黨)が一九一五年十月十三日に中央機關紙『社會民主主義』第四十七號(當時、ツァールの檢閲を避くる關係上、ジューネーブに於て發行せられてゐた)に提唱した所の平和綱領を實現することが出來るであらう。

この平和綱領は多分、次の如くであつた。

一、勞働者農民代表者全露ソヴィエット(若くは一時的にこれに代位すべきペテルスブルグ・ソヴィエット)は、即刻、彼がツァールの帝政又はブルジョア政府の締結した如何なる條約とも結合されてゐないことを宣言する事。

二、全露ソヴィエットは即刻、あらゆる條約を公表し、ツァールの帝政及び例外なく有らゆるブルジョア政府の持つてゐる盜賊的戰爭目的を公衆をして批判せしむるために暴露する事。

三、全露ソヴィエットはあらゆる交戰國に向つて休戰を締結することを即刻要求する事。

四、全露ソヴィエットは我々の條件、即ち勞働者及び農民の平和條件を即刻公表すべき事。その條件は

あらゆる殖民地の解放

あらゆる隷屬的な、壓迫されて居る、權利を奪はれてゐる民族の解放

である。

五、（略）

六、全露ソヴィエットは、ブルジョア政府がその犯罪的盜賊的戰爭のために借り入れた數百億の國債は資本家の諸紳士自身をして支拂はしむべく、勞働者及び農民は此國債を承認しないであらうことを宣言すべきである。この國債に向つて利子を支拂ふことは、資本家が資本家的獲物の分配のために勞働者を相互に相互はしめた事に對して、年々、貢物を献げることを意味する。勞働者代表ソヴィエットは言ふべきであらう。『勞働者及び農民よ、諸君は年々、數千萬ルーブルを資本家諸君に、戰爭をしてくれた御禮だと言つて支拂ふ積りであるか？　資本家はアフリカ殖民地、トルコ、等、等の分割のために戰爭を行ふたではないか？』

余は考へる、勞働者代表ソヴィエットは、以上の平和條件の爲めならば、いかなるブルジョア政府とも、世界のすべてのブルジョア政府に向つてでも戰爭を行ふ決心が必要となるに至るであらう。何となれば、それは眞に正義の戰爭であらうから。（二行略）

今やドイツの勞働者は、ロシアに於て、戰爭を遂行する帝政の代りに戰爭を遂行する共和國の現れてきた事を見てゐる。しかり、帝國主義戰爭を續行し、ツァールの帝政の盜賊的條約を確認しようと欲する、資本家の共和國を見てゐる。

ドイツの勞働者がかくの如き共和國に信任を與ふることが出來るかどうかを自省せよ！（五行略）

（第四篇）

プロレタリア黨の綱領草案

（一九一七年四月稿、同九月、小冊子として發表）

ロシアに於ける眼前の歴史的瞬間は次の根本的特質によりて特徴付けられてゐる。

既に起れる革命の階級的性質

一、一掴みほどの地主の群れを代表した全國家機關(軍隊、警察、官吏制)を支配してゐた所の、舊いツァールの權力は正に打破せられ、除去せられた。しかし、其れは破壞されてしまつてはゐない。帝政は正式に排除されてしまつてはゐない。ロマノフ家の一黨は帝政的陰謀の企てを續けてゐる。封建的地主の巨大な所有地は收用されてはゐない。

二、ロシアに於ける國家權力は新しい階級の手へ、しかりブルジョアジーとブルジョア化した地主の手へ移つたのである。その限りに於て、ロシアの民主的革命は完了したのである。

權力を握るに至つたブルジョアジーは、一九〇六年より一九一四年に至る時代に於てニコラス血王、絞刑執行人ストリピンを前代未聞の猛烈さを以て支持した所の、明白な帝王的要素(グチコフ其他のカデットの右翼に立てる政治家)と一の聯合(一の同盟)を結んでゐる。ルヴォフ一黨の新ブルジョア政府はロシアに帝政を再興しようと試み、ロマノフ黨與と協議をした。此政府は自ら革

命的であるかに裝つてはゐるが、責任ある地位は舊制度の支持者を以て充たしてゐる。此政府は國家機關の全機構(軍隊、警察、官吏制)を出來得る限り少く改革し、これをブルジョアジーの勢力の下においてゐる。(二行略)

此政府は未だ一回も國民議會召集の期日を發表したことがない。彼は封建的ツァーリズムの物質的基礎たる地主の大土地所有に手を觸れようともしない。此政府は政策の討究と公布や、大銀行、シンジケート、カルテル等の獨占的金融團體の統制等に着手しようと考へたことは全然無い。

新政府に於ける最も重要な、最も決定的な大臣の椅子(內務大臣、戰爭大臣、卽ち軍隊、警察、官吏制、簡單に言へば大衆を奴隷化する全機關についての指揮者)は、明白な帝政主義者や地主的大土地所有の支持者に依りて占められてゐる。カデット卽ち蒸し立ての共和主義者に對しては、共和主義者の意志に反して、國民に對する指揮や國家權力の機構に對して何等直接の關係のない、小さい椅子が與へられてゐるに過ぎない。トルウドヴィキの代表者であり『でも社會主義者』であるケレンスキーは、人民の活氣と昂奮とを死んだ文句で眠らせるといふこと以外には、絕對に

何等の役割も演じてゐない。

以上に述べた全ての事から見れば、新らしいブルジョア政府が內治政策の範圍に於てすらプロレタリアートの最小の信任にも値せざるのみならず、いかなる方法に依つてもプロレタリアートから支持を受くべきものでない事は明かである。

新政府の外交政策

三、今日客觀的事實として表面に現れ來つた外交政策の範圍に於て、新政府は帝國主義戰爭の繼續てふ立場に立つてゐる。この戰爭たるや、帝國主義的列强、卽ちイギリス及びフランス等と同盟して資本主義的獲物の分け取りのために、弱小諸民族の絞殺のために行はれてゐるものである。

新政府は、ロシア資本の利益と、その富裕且つ强大なる保護者たり支配者たるイギリス及びフランスの資本の利益に隷屬するものである。新政府は——勞働者兵卒代表ソヴィエットに依り、ロシア內に於ける諸民族の疑ひもなき大多數者の名に於て表明せられた希望を無視し、資本の利益

のために繼續せられてゐる民族的虐殺を終局せしむべき、いかなる現實的な手段をも企てゝゐない。新政府は明白に盜賊的内容を持つた、ロシアをイギリス及びフランスの帝國主義者、盜賊的資本家と結びつける秘密條約（ペルシャの分割、支那の掠奪、トルコの掠奪、オースタリーの分割、東プロシャの分離、ドイツ植民地の分離等、等）を未だ一度も公表しない。新政府はツァーリズムの締結した是等の諸條約を確認した。（三行略）

新政府は勞働者及び兵卒代表ソヴィエットに依りて明瞭に表明せられてゐる所の、ロシア内の大多數民族の要求にも拘らず、これらの恥づべき條約を確認し、交戰國に向つて即時休戰をなすべき提唱をして居らぬ。政府は景氣のいゝ、響きのいい、しかし全く内容のない宣言や飾り文句のみに自ら制限してゐる。それはブルジョア外交家が被壓迫民族の、物を信じ易い、素朴な大衆を欺くために常に用ひた、そして今も用ひてゐる所の宣言や飾り文句である。

四、この故に新政府は外交政策の範圍に於て最小の信任にも値しない。なほこの政府に向つて、彼等がロシアの諸民族の意志を公布すること、彼等が領土併合を斷念すること、等、等を要求するのは、實際に於て民衆を愚鈍にするに過ぎぬものであり、充たされない希望を以て民衆を引き留むるものたるに過ぎぬ。それは民衆の意志の發揚を妨げ、この方法に於て民衆を戰爭の延期に同意せしむるものに過ぎぬ。何となれば戰爭の眞の社會的性質は、敬虔なる希望に依りて決定せられるものでなく、これを決定するものは、戰爭を行ふ政府の階級的性質であり、當該政府の代表する階級とロシア、イギリス、フランス其他の帝國主義的金融資本との關係、この階級を押し動かす眞の事實的政策等に外ならない。

一種特別の二重支配と其階級的意義

五、吾々の革命の最大の特質、最も深刻なる考慮を強要する所の特質は、革命の勝利の第一日に成立した二重支配である。

この二重支配は政府の存在といふ現はれ方をしてゐる。第一の、正常の、事實上のブルジョアジ

ーの政府は、其手中にあらゆる權力機關を握つてゐる。第二の、補充的な補助政府――第一の政府を『統制』してゐる所の――は勞働者兵卒代表者ペテログラード・ソヴィエットから成り立つてゐる。この政府は、國家權力の諸機關を處理してゐないが、しかし直接に人民の大多數の上に、武裝したる勞働者及び農民の上に立脚してゐる。

この二重權力の階級的根源と其階級的意義とは、一九一七年三月のロシア革命が單に帝政を除去し、全權力をブルジョアジーに移したるのみならず、また此の革命が強くプロレタリアート及び農民の獨裁に向つて進んだ、といふ點に存してゐる。何となれば、勞働者兵卒代表者のペテログラード其他の地方のソヴィエットは一の獨裁(一行略)

を代表してゐるからである。

六、ロシア革命の他の極めて重要な特質は、大多數の地方ソヴィエットの信任を受けてゐるペテログラードの兵卒勞働者代表ソヴィエットが自由意思を以て全國家權力をブルジョアジーと彼等の假政府とに委任してゐる事、ソヴィエットが假政府を支持するといふ諒解を遂げた後、自由意志を以て首位をこれに與へた事、このソヴィエットが憲法制定議會の召集に對する監視者、統制者を以

て自ら滿足してゐる事、等である。(假政府は、今日に至るまで、なほ一回も召集期日を公布してゐない。)

この異常に注意すべき、歴史上、未だ此形態を以て出現したことのない現象は、二つの獨裁の混合を生み出してゐる。第一はブルジョアジーの獨裁である。(何となれば、ルヴォフ一黨の政府は一の獨裁、(一行略)

上に立脚する所の政府である。この權力奪取は一定の階級即ちブルジョアジーに依りて實現されたものである。)第二はプロレタリアート及び農民の獨裁(勞働者及び農民代表者ソヴィエット)である。

かくの如き『混合』が決して永續きのできるものでないことは、毫も疑ひなき所である。一國に二つの政府が成立し得べきではない。彼等のうちの一つは退かなければならぬ。而してロシアの全ブルジョアジーは、あらゆる可能な方法を以て勞働者兵卒ソヴィエットの權力を破壞し、除去し、ブルジョアジーの單獨支配を確立しようとする仕事に、既に着手してゐる。

二重支配は革命の發展裡に於ける一の過渡的瞬間を現はしてゐるものに過ぎぬ。(二行略)

この不確實な過渡狀態の階級的意義（と階級的說明）とは次の點にある。（五行略）

ロシアに於てもそうである。ロシアは今煮えくり返つてゐる。永く政治的に睡つてゐた無數の人々、ツァーリズムの怖るべき壓迫と地主及び工場主のための奴隸勞働とのために政治的に何の思索もしたことのない無數の人々、これの人々は今や覺醒し、政治へ向つて直進してゐる。この無數の人々は何人であるか？　その大部分は小所有者、小ブルジョアジー、資本家と賃銀勞働者との中間に立つてゐる人たちである。ロシアは歐羅巴のあらゆる國々の內で最も小ブルジョア的な國

である。

力强い小ブルジョアの波がすべてを貪り呑まんとしてゐる。階級意識あるプロレタリアートは小ブルジョアの數量的强味から押されてゐるのみならず、そのイデオロギーからも押されてゐる。卽ち廣いプロレタリアートの範圍に亘つて、政治に關する小ブルジョア的見解が流布してゐる。

小ブルジョアジーは其實際生活上、ブルジョアジーに從屬してゐる。彼等自身、所有主として生き、プロレタリアートとして（社會的生產に於て彼等の占めてゐる地位から見て）生きてゐるのでない。彼等の思考方法もブルジョアジーに追隨してゐる。

平和と社會主義とに對する最惡の敵たる資本家を無意識的に盲信する態度、――これがロシアに於ける大衆の現在の政策の最も著しい特徵であり、歐羅巴の最小ブルジョア的な國たるロシアの社會經濟的基礎の上に革命的迅速さを以て成長したものである。これが臨時政府と勞働者兵卒代表者ソヴィエットの間に於ける『妥協』の階級的基礎である。（私は形式上の妥協を事實上の支持、暗默の妥協、政府に對する盲目的無意識的妥協ほどに重く見ないことを力說しておく。）この妥協はグチコフに對して一の肥えたる美肉卽ち事實上の政府の權力を齎らしたものであるが――しか

しソヴィエットに對しては、それをケレンスキーの側よりする單なる擧手敬禮、阿諛、宣言、宣誓、儀禮たるものに過ぎぬ。

社會革命黨までに至る有らゆるナロドニキ黨は常に小ブルジョア的であつた。チヘーゼ、ツェレテリ、其他の黨亦然り。何等の黨にも屬せざる革命家(ステクロフ其他)も亦此風潮に捕はれた。彼等は此風潮を征服しようとする力も時も持たなかつた。

以上の情勢より生ずる戰術の特異性

七、マルクス主義は客觀的事實と大衆と階級とを標準として計算するものであつて、個々の人物を標準して計算することをしない。以上述べたる事實上の狀態の特質から、マルクス主義者にとつて、所與の瞬間に於ける戰術上の特異性が生ずる。

此特異性は先づ『革命的民主的文言の甘いレモン水のなかに一滴の苦汁を投ずる』といふ計畫に存してゐる。(この巧い文句は吾黨の中央執行委員會の一友——テオドロヰチ——が昨日催された全露鐵道勞働鐵道勞働者及び同事務員大會で使つた文句である)。これは批評の仕事であつて

社會革命黨及社會民主黨等の小ブルジョア諸黨の過失を宣言し、意識的なプロレタリア的共產黨のあらゆる要素を準備し結合し、プロレタリアを『一般的』な小ブルジョア雲霧より解放する事に存してゐる。

これは『單なる』宣傳的仕事に過ぎざるかの外觀がある。しかし事實に於て、それは最も實際的、最も×××な仕事である。(一行略)今や×××は行きとまりの狀態になつて居り、空語の中に溺れて一歩も進み得ないでゐる。すべて是等のことは外部の障害によるものでも、ブルジョア側の暴力によるものでもなく(グチコフは以前、ただ一度兵卒大衆に向つて暴力行使を以て脅かしたのみである)、寧ろ大衆の物を信じ易い短見から起つてゐる。

この短見と戰ふことに依りてのみ、革命的文句の連發から吾々を解放し得る。(この短見と戰ふことは思想的にのみ、同志的感化に依りてのみ、生々とした經驗上の立證によりてのみ、なし得るのであり、またなさねばならぬのである。)プロレタリア意識は大衆の意識を進歩させる。同時にそれに地方に於ける大衆の鋭い、決然たる創意や、民主主義の自由と全國民の全土地に對する

使用權の原則との獨得の實現、發展、確立やを推し進める。

八、世界のブルジョア的地主的諸政府の經驗は、二つの組織を編み出してゐる。第一の仕組みは暴力である。ロマノフ家のニコラス一世とニコラス二世はロシア國民に向つて、この絞刑の仕事の可能と不可能との最大限を強要した。しかも英佛のブルジョアジー——既に幾多の大革命的大衆運動によりて『利巧に』なつてゐる所の——が最も善く編み出した第二の仕組みがある。それは欺瞞、阿諛、空語、百千の約束、重要な事を殘しておいて而も決して實行しない讓歩、などの仕組みである。

ロシアに於ける眼前の情勢の特質は、イカサマ師のように迅速に第一の仕組から第二の仕組みへ、即ち、國民に對する暴力行使から空虛な約束を連發して國民に媚び且つ欺くことに、轉じたことに存してゐる。牡猫は靜かに聽耳を立て、なほも偷み食ひを續けてゐる。ミリウコフとグチコフは權力を手中に握り、資本の利潤を保護し、ロシア及び英佛の資本の利益のために帝國主義戰爭を續行し、チヘーゼ、ツェレッテリ、ステクロフ其他の『料理人』に對する答辯には種々の提議、宣言、有效な應答等を以て巧みに諸々の事件から切り拔け、色々の威嚇を切り拔け、理性を

ふりかざし、宣誓し、嘆願し、要求し、公告してゐる。……『牡猫は靜かなる聽耳を立て、なほも偷み食ひをつづけてゐる。』

しかし日を逐ふて、信用するに足りる盲目性と、盲目的な信用性とが減少して行つてゐる。特にプロレタリアート及び貧農の側に於てそうである。彼等は生活自身(彼等の社會的經濟的狀態)から、資本主義の毫も信用するに足りない事を敎へられる。

小ブルジョア諸黨の指導者は、民衆に、ブルジョアジーに對する信任を敎へ込まねばならない。プロレタリアートは、民衆に、その不信任を目ざめしめねばならない。

×××××とその階級的意義

九、『殆んどすべてのもの』を呑みつくさうとしてゐる小ブルジョアの波の、最も重大な、最も著しい現象は、×××××なるものである。それは實にロシア革命の將來の發展と成功とに對する最惡の敵である。

この問題に襲はれて、しかも是れより解放され得ないでゐる人々——この人々は革命にとつて

無用となつたものである。しかし大衆は指導者よりも別な方法で、卽ち發展の他の行程を通じて、自ら解放するのである。

××××××は、一方に於ては、ブルジョアジーの大衆欺瞞の產物であり、農民及び一部勞働者の物を信じ易い盲目性の產物であるが、しかし他方に於ては、小所有者の利益と立場とを表現するものである。小所有者は或る程度まで領土併合と銀行利潤とに利害關係を有し、大ロシア人に他民族に對する絞刑人の役割を演ぜしめて是れを頽廢せしめた所の、ツァーリズムの傳統を『神聖』と考へてゐる。

ブルジョアジーは國民を欺いてゐる。彼等は革命に對する國民の高貴な誇りを踏み付けてゐる。彼等は、ツァールの帝政がグチコフ、ミリウコフのでも共和國と交替した故に、恰も戰爭の社會的經濟的性質が革命の此階段に於て、ロシアの側に於て、既に變化した、といふが如くに事情を見せかけてゐる。而して國民は——早合點して——すべてを信じてゐる。それは部分的には、大ロシア人でない他民族を大ロシア人の財產の一種若しくは種族財產と見るに慣れしめられた、傳統的な偏見に基いてゐる。ツァーリズムは大ロシア人を最も卑しい方法で頽廢せしめた。卽ち他民族

が恰も價値の低い物、『法律』上、大ロシア人に隷屬してゐる物といふ風に思はせることに努めてきた。而して此頽廢は急に消滅するものではない。

吾々は、戰爭の社會的政治的性質が個人や團體や若くは民族の『善良なる意志』に依つて定められるものでなく、戰爭を行ふ階級の狀態に依り、戰爭を繼續する其政策に依り、近代社會の支配的經濟權力としての資本の聯合に依り、國際資本の帝國主義的性質に依り、イギリス、フランス其他に對する財政、銀行、外交等の隷屬に依りて決定せられるものであることを、大衆に向つて明かにすることを了解せねばならない。

しかし吾々のプロパガンダの方向、もつとよく云へば、その內容は、以上の如く、ただ以上の如くでなければならない。（三行略）

『戰爭×××』といふ標語は全然正當である。しかし此標語は、眼前の重要な問題の特質、卽ち廣大な大衆に他の方法で近付いてゆくといふ必要から見れば、正しくない。余は思ふ。此標語は

『ツァール×××』といふ標語を回想せしめるものである。『古い善い時代』の不慣れな煽動者達は、深い思慮もせずに此標語を携へて地方に入つて行き――そして散々迫害せられたのであつた。大衆中に於ける×××『××××』の代辯者は――それは個人的意味でなく、階級イデオロギーの意味に於て――尊敬すべき人たちである。（二行略）

このことはブルジョアジーや『インテリゲンチャ』諸君とは全く異つてゐるところである。彼等は、資本の支配を斷念することなくして領土併合を斷念し得ないことを充分承知して居り、美くしい文句や出鱈目の約束を以て大衆を恥知らずに欺いてゐる。

大衆に於ける祖國擁護の支持者は、毒にも藥にもならぬ町人等と同じような單純さで問題に對してゐる。即ち『私は少しも領土併合を欲しない、然しドイツ人が吾々に迫つてゐる、そこで私は正當な事柄を擁護するだけで、少しも何等かの帝國主義的利益を擁護するのでない』かくの如き人間に對し、吾々は常に々々繰返して、問題は個人的希望に關係するものでなく、大衆關係、階級關係、政治關係、政治條件に關するものであり、戰爭が資本を國際銀行網との利益に從屬し

てゐるものである、ことなどを明かにせねばならない。×××の立場をかくの如くして克服することのみが眞摯であり、成功を約束するものである。――それは迅速でなくとも、確實な、永續きのする成功である。

いかにして戰爭を終局せしめ得るか？

一〇、何人も戰爭を『希望』に依つて終局せしめることはできない。何人も一方側のみの決定を以て戰爭を終らせることはできぬ。祖國擁護を支持する一兵士が表現したように『銃劍を土に突き刺す』ことに依つて戰爭を終らせることもできない。

戰爭は諸國の社會主義者の『諒解』に依つて終らせ得るものでない。すべての國のプロレタリアの『行動』に依つても、諸國民の『意思』に依つても、それは不可能である。無條件的に若くは部分的に祖國擁護や半國際主義的傾向の支持者が新聞論說に書き立ててゐる此種の空文句は、勞働者兵卒代表者ソヴィエットの無數の決議文や檄や宣傳や公布文と同じく――すべて是れ等の文句は、空虛な、素朴な、人のよい小ブルジョア的願望に外ならない。『諸國民の平和意思』とか、

プロレタリアートの革命的行動の順序（ロシア人の次ぎにドイツ人が『順番に當つてゐる』といふが如き）とかいふものを說き立てる此種の文句ほど、恥づべきものはない。すべてをこれらのはルイ・ブラン主義であり、甘い昏睡であり、『政治運動』に關する遊戯であり、――而して實際上に於ては空虛な辯說に過ぎない。（一頁略）

農業問題及び民族問題

一三、吾々は、現在の瞬間に於て、一つの强烈な農業革命が近き將來に於てロシアに發展するかどうか、を正確に知ることができない。吾々は最近時に於て特に强く感ぜられるに至つた所の階級的差違――一方に於ける土地のない農民、農業勞働者及び貧農（半プロレタリア）と、他方に於ける富農及び中農との間に於ける――がどれほど深刻であるかを知らない。かくの如き問題に對する答辯はたゞ經驗のみがこれを與へるであらうし、又與へ得るのみである。

以上に拘らず、プロレタリアートの黨たる吾々は卽刻、一つの農業綱領をもつて登場するのみ

ならず、又ロシアに於ける農民革命、農業革命の利益のために直ちに實現し得べき手段を宣傳すべき義務を無條件的に負ふてゐる。

吾々は全部の土地の國有化を要求せねばならない。即ち國境内に於けるあらゆる土地を、中央集權的國家權力の所有に移すことを主張しなければならない。この權力は植民者のための準備地の範圍等を確定せねばならない。森林の經營や、土地改良等のためにする法律を作らねばならない。土地所有者――即ち國家――とその賃借人との間の媒介を行はねばならない。(將來の賃貸借は禁ずべきである。)しかし、土地に對するすべての管理、並に占有權及び使用權に對する地方的條件の確定――すべてこれらの事はもはや官僚的な官吏の手に委ねることを許すべきでなく、全勤農民代表者の地方及地區ソヴィエットに委任せらるべきである。

穀物生産の技術の改良、及び生産の向上の利益のため、並に合理的農業大經營の發展及びこれに對する國家的統制の實施の利益のために、吾々は農民委員會の内部に於て、差し押へをしたすべての地主經營からして、農業勞働者ソヴィエットの統制の下に立つて大規模な模範經營を形成することにつとめねばならない。

特に社會革命黨は『消費の規範』若くは『勞働の規範』、土地の社會化といふが如き、恐知らずの言語を弄してゐる。斯の如き小ブルジョア的空語や政策に對して、プロレタリアの黨は小經營の組織が、商品生産の支配の下にあつて、人類を缺乏と隷屬とより解放することの出來ないものであることを、明白にすることにつとめねばならない。

プロレタリアの黨は、農民ソヴィエットを即時且つ無條件的に分裂せしむることなく、特別な農業勞働者ソヴィエットを形成する必要、並に貧農(半プロレタリア)のソヴィエットを作る必要を、明らかにしなければならない。若くは、少くとも、一般的な農民ソヴィエットの内部に於ける個々の分派若くは黨としての是等の階級層の代表者の特別な自主的な會議を實施することを努めねばならない。かくの如くなれば、農民問題に關するナロードニキのあらゆる甘い小ブルジョア的文句が、富農が無所有の大衆を欺くためのマントにすぎないことが暴露せられるであらう。富農なるものは資本家の一部分にすぎない。

多くの社會革命黨員並に勞働者兵卒ソヴィエットは、農民に地主の土地を沒收することを思ひ止らせ、農業改革を憲法制定議會の召集まで延期させようとたくらんでゐる。彼等の口にしてゐる

ブルジョア自由主義的若くは純粋の官僚主義的說教に對抗し、プロレタリアートの黨は、農民に向つて、地方農民ソヴィエットの決議にしたがひ、農業改革を即刻自主的に實現すること、並に地主××××××××××××ことを訴へねばならない。この際、差押へたる領地の家畜、器具、機械建物等を決して毀損してならないことを要求することが特に大切である。それは戰線の兵卒及び都市への輸送のために、生活必需品生産を向上する必要からである。

一四、プロレタリアの黨は、民族問題に關しては、先づ次の事を承認しなければならない。ツァーリズムによつて奴隷化され、ロシア帝國に暴力的に併合され、强制的にロシア國家の國境内にくみいれられてゐた所のすべての民族が獨立を宣言し、ロシアより分離する無條件的な權利を明らかに獲得すること、即ちこれである。

領土併合を斷念するといふあらゆる誓約、宣言、宣告も、分離の權利を事實上に實現する事と伴はざれば、要するに、ブルジョア的欺瞞であるか、若くは小ブルジョア的な、お人よしの願望にすぎない。

プロレタリアの黨は、出來うる限り大國家の形成のために努力せねばならぬ、何となれば、新の如き國家形態があらゆる勞働大衆にとつて利益であるからである。プロレタリアの黨は、更に諸民族の接近及び將來の融合のために努力せねばならぬ。併し乍ら、この目的は暴力的に行はれるものではなく、全然、あらゆる民族のプロレタリアートと勞働大衆の自由な、同胞的な結合によりてのみ實現せられるのである。

ロシア共和國が民主的であればあるほど、そしてロシア共和國が意識的に勞働者農民ソヴィエットの共和國と進み行けば行くほど、自由意志を以て、あらゆる民族の勞働大衆のこの種の共和國と結合しようとする努力は、愈々力强くなるであらう。

銀行及び資本家的シンヂケートの國有化

一五、プロレタリアートの黨は、如何なる事情のもとに於ても、人口中の壓倒的多數が社會主義革命の必要の意識に到達しない限り、小農經營の國に於て社會主義を『實施』することを目標

とする事はできない。

しかし、『似而非マルクス主義』の流行語の背後にかくれるブルジョア的詭辯家のみが、×××手段の即時實現を引延ばす政策を正當化してゐるのである。この手段は既に充分に實行のために成熟してゐるものであつて、實際上、すでに屢々戰爭中、多くの資本主義國家によつて實行せられてゐるものであり、近づき來れる經濟上の全破滅と飢餓とに戰ふために、無條件的に必要なものである。

土地、全部の銀行、資本家的シンデケートの國有化と云ふが如き手段、若くは少くともこれに對する勞働者ソヴィエットの即時統制の實施と云ふが如き手段、これらの手段は決して社會主義の實施を意味するものではない。しかしながら、それは無條件的に戰ひ取らねばならぬものである。たゞ社會主義

(二行略)

への出發點であり、經濟上、絶對的に實現せざるべからざる所の斯の如き手段なくして、戰爭の創痍を醫し、近づき來れる破滅を征服することは不可能である。革命的プロレタリアの黨は、戰爭によつて狡猾に暴富を積んだ資本家及銀行家の、前代未聞の高い利潤を×××ことを決して

×××××あらう。

社會主義インタナショナルの狀勢

一六、ロシアの勞働階級の國際的任務は、今やまさに、特別の力をもつて、重大化してきた。今日、誰れも國際主義を誓つてゐる。祖國擁護の排外主義的辯護人すら、紳士プレハノフ、ポトレソフすら、ケレンスキーすらも、自ら國際主義者と稱してゐる。『國際主義』に對する唇だけの告白に對し、プロレタリア黨が、あらゆる鮮明、正確、決斷を以て、行動の國際主義を對抗せしめる義務は愈々大である。

あらゆる國の勞働者に對する空虛な訴へ、國際主義に對する忠誠の無意味な誓約、諸交戰國に於ける革命的プロレタリアートの行動の『順序』を直接又は間接に決定しようとする試み、交戰國の社會主義者の間に革命的鬪爭に關する『了解』を成立せしめんとする痙攣的な努力、平和のための鬪爭に社會主義者大會を召集せんとする企て、等、等。すべて此等のものは、その客觀的意義にしたがへば——これらの思想、これらの試み、これらの計劃の唱導者が如何に正直であら

うとも、――單なる飾り文句にすぎない。最もよい場合でも、それは罪のない、人のよい、願望にすぎない。そして排外的社會主義が大衆欺瞞をおほひかくす事に充分役に立つ。最も巧みな、そして議會主義的詐謀のあらゆるたくらみを最も多く行つた所のフランスの排外的社會主義者等は、既に長い以前から、非常に響のいゝ平和主義的、國際主義的文句を弄してゐる。この文句の中には、社會主義及インタナショナルに對する無比の卑しい裏切りと、帝國主義戰爭を行ふ内閣への入閣と、豫算や國債を承認する投票と(最近のロシアに於てチヘーゼ、スコベレフ、チエレフ、ツェレテリ、ステクロフ等は同じ事をやつてゐる)、自國に於ける革命的鬪爭の妨害とが、結び合つてゐる。

人のよい人間は、屢々帝國主義世界戰爭の慘虐な、悲慘な狀態を忘れる。この狀態は如何なる空文句をも許すものでない。この狀態はあらゆる罪のない、甘い願望を嘲笑する。一つの、たゞ一つの、行動のインタナショナリズムのみである。これは、自分の國に於ける××××××××××××××ために充分の献身を以てなされる仕事、同じ鬪爭、同じ鬪爭傾向及び例外なくあらゆる國に於けるかくの如き鬪爭を支持すること(宣傳、同情、物質的援助等に依る所の)

を意味する。すべて他の事は詐謀であり、惑亂した感傷主義である。

國際的に社會主義的プロレタリア的運動は、あらゆる國に於て、戰爭の經過中に三つの傾向に分裂した。この三つの潮流の認識、その分析、眞の國際的潮流のためにする徹底的鬪爭の現實の地盤から退却するものは、不活動、無力、過誤を自ら宣告するものである。

三つの潮流とは次の如きものである。

1　排外社會主義者、即ち言葉の社會主義者、行動の排外主義者である。彼等は帝國主義戰爭(と眼前の帝國主義戰爭に於けるあらゆる事物)に於て『××××』の立場をとるものである。

この手合は、吾々の階級的敵である。彼等はブルジョアジーの方へ移つてしまつてゐる。

あらゆる國々の官許的社會民主黨の官許的指導者の大多數は、これに屬してゐる。ロシアに於けるプレハノフ一黨、ドイツに於けるシャイデマン派、フランスに於けるルノーデル、ゲード、イタリーに於けるビソラチ、イギリスに於けるハインドマン、フェビアン派及びレーボリスト(勞働黨の指導者)、スエーデンに於けるブランチング一黨、オランダに於けるトロエルストラ及びその黨、デンマークに於けるスタウニング及びその黨、アメリカに於けるヴィクトル・ベルガー及び

其他の××××派がこれである。

2　第二の潮流――所謂『中央派』――は排外的社會主義者と眞の國際主義との間を動搖する人々より成る。

『中央派』の人々は、聲高く、且つしかつめらしく次の如く誓ひを立てる。即ち彼等は、彼等自身マルクス主義者であり、國際主義者であると唱へる。彼等は平和を欲し、政府に對するあらゆる『强制』を行はんと欲し、自國の政府にあらゆる『要求』を提出せんと欲する、と稱する。これによつて自國民の平和的意志を公表せんと欲し、領土併合なき平和を欲する等、等、と稱する。――しかし、彼等は事實上、排外的社會主義者との平和を欲してゐるものにすぎぬ。中央派は『統一』を欲し、中央派は分裂に反對する。

『中央派』は甘い小ブルジョア的文句の王國、言葉の國際主義、しかし行動上の脆弱なる日和見主義、排外的社會主義に對する屈服に外ならぬ。

事情の核心は次の點に存してゐる。即ち中央派は、×××××××××××××××確信を持たず、これを宣傳せず、忌憚なく××××××××ことをなさずして、却つて、考へ得られ

る限りの馬鹿らしい、そしてヒステリー的なマルクス主義的逃げ口上を求めてゐるにすぎない。

排外的社會主義は吾々の階級的敵であり、勞働運動内部に於けるブルジョアである。彼等は客觀的にブルジョアジーによつて買收せられた勞働者の層、群、部分より成つてゐる。(よりよい賃銀、地位のよい役人等。)彼等は、弱少民族を掠奪し、壓迫し、資本主義的獲物の分配のために鬪爭するところの、自國ブルジョアジーを助けてゐる。

『中央派』は、無氣力な×××に食はれてしまつて居り、議會主義の空氣で墮落してしまつてゐる、頽廢した人間たちである。彼等は收入のいゝ地位と『安樂』な仕事とに慣れてゐる官吏根性に泌みてゐる。歴史的經濟的立場から觀察すれば、彼等は毫も特別の社會層でない。彼等は一八七一年乃至一九一四年に於ける勞働者運動の發展時代に生じた過渡的現象たるにすぎない。この時代は多くの價値あるものを作り上げた。特に、非常に廣大な範圍に於ける、徐々たる、集中的な、系統的な組織的仕事について、プロレタリアートにとつて無條件的に必要な訓練を作り上げた。――この時代は、第一の帝國主義世界戰爭の開始以來、客觀的必然として表はれ且つ社會×の時代を展開した所の、新しい時期と接續してゐる。

『中央派』の精神的指導者たり代表者たるものは、第二インタナショナル（一八八九―一九一四年）の最大の權威カール・カウツキーである。彼はマルクス主義の完全なる破滅、無比の性根なし、一九一四年夏以來の哀れむべき動搖と裏切との模型的な例である。中央派の潮流に屬してゐるものは、ドイツに於てはカツツキー、ハーゼ、レーデブール、及び帝國議會内に於ける所謂『協働派』の全部、フランスに於てはロンゲー、プレッセマン其他の所謂『少數派』イギリスに於てはフィリップ・スノーデン、ラムゼー・マクドナルド其他多くの獨立勞働黨の首領及び部分的には英國社會黨の首領、アメリカに於てはヒルキット其他の多數、イタリーに於てはチュラチ、トレーヴェス、モヂグリアニ其他、瑞西に於てはロバート、グリム其他、墺太利に於てはヴィクトル・アドラー一黨、ロシアに於ては組織委員會（OK）、アクセルロド、マルトフ、チヘーゼ、ツェレッテリ、其他である。

個々の人間が、自ら意識せずに、排外的社會主義の位置から『中央派』の位置に移り、或は『中央派』から排外的社會主義へ移ることの有るのは、明かである。マルクス主義者は何れも次のことを知つてゐる。卽ち個々の人間が一の階級から他の階級へ自由に移り得るものであつても、各階

級は依然として相互に分裂してゐるのもである事、同樣に個々の人間が一の潮流から他の潮流に自由に移ることが出來ようとも、又は諸々の潮流と融合しようとする試みや努力がなされようとも、しかも政治生活上の諸潮流は依然として相互に分裂してゐるものである事を知つてゐる。

3　第三の傾向は國際主義者である。これは『チムメルワルド左翼』に依つて最もよく表現せられてゐる。

その主要相違點は、排外社會主義とも中央派とも絕對に決裂してゐることにある。××の帝國主義政府、××の帝國主義ブルジョアジーに對し、献身を以て鬪爭する事に在る。その鬪爭の原則は『主要の敵は××××』といふ事に在る。この國際主義派は、甘い平和的社會主義の空語（平和的社會主義者は言葉の社會主義者、行動のブルジョア的平和主義者である。平和的社會主義者は資本と壓迫と支配××××××××永久の平和なるものが來ると夢想する。）（三行略）に忌憚なき鬪爭をするのである。

この潮流の最も重要な代表者は、ドイツに於ては、カール・リーブクネヒトを團長とするスパル

タクス團若くは『インテルナチォナーレ』の一團である。カール・リープクネヒトは、この派、この新しい事實上のプロレタリア的インタナショナルの最もよく知られた代表者である。

カール・リープクネヒトは、ドイツの勞働者及び兵卒に向つて、××××××××××××××と訴へた。カール・リープクネヒトは、これを公然、帝國議會の演壇から行つた。それから彼はベルリンの最大の廣場なるポツダム廣場へ赴き、そこでメーデーの示威運動に向つて、×××××××と訴ふる違法出版の檄文を配布した。彼は逮捕され、禁錮刑を宣告せられた。今日、リープクネヒトは監獄のなかにゐる。かようにして、×××××××闘爭した、百人又は千人のドイツの眞の社會主義者は、今や鐵窓の下に憔悴してゐる。

カール・リープクネヒトは、演説及び書翰に於て、單に自國のプレハノフ、ポトレソフ、(卽ちシャイデマン、レギエン、ダヴイット其他)に對してのみならず、自國の『中央派』連中、自國のチヘーゼ、ツェレッテリ(卽ちカウツキー、ハーゼ、レーデブール一黨)に對しても、忌憚なき闘爭を行つたのである。

カール・リープクネヒトと其友人オットー・リューレのみが、百十人の帝國議會代議士の中に在つ

て、黨の規律の鐵柵を破り、『中央派』及び排外主義者に對する『一致』を破壞し、獨りすべての者に反對して起つたのである。リープクネヒトのみが社會主義を、プロレタリアートの事項を、プロレタリア××を代表した。ドイツの他の全ての社會民主主義者は、ローザ・ルクセンブルグ(スパルタクス團の團員であり指導者である)の適切な言葉を以てすれば、惡臭を發する死屍である

ドイツにおける行動の國際主義の他の一派は、ブレーメンの新聞『勞働者の政治』が代表してゐる。

フランスに於ける行動の國際主義は先づロリオ及び彼の友人(ブルデロン及びメールハイムは平和的社會主義に傾いてゐる)及び瑞西に於て雜誌『デメン』を發行するアンリ・ギルボーである。

英國に於ては、雜誌『トレード・ユニオニスト』、英國社會黨及び獨立勞働黨の一部がそうである。(例へばウイリアム・ラッセルは公然、裏切者の社會主義首領との決裂を唱へてゐる。)更にスコランドの小學校教師であり社會主義者であるマク・レアンがゐる。彼は戰爭に反對する彼の革命的闘爭のために英國のブルジョア政府によりて投獄せられてゐる。更に數百人の社會主義者は、同種

の犯罪のために英國の監獄に監禁せられてゐる。彼等のみが行動の國際主義者である。

アメリカに於ては、吾々にとつて、『社會主義勞働者黨』及び日和見主義的の『社會主義黨』の內部にあつて一九一七年一月以來、新聞『インタナショナリスト』を發行してゐる一部が問題となる。

オランダに於ては、雜誌『トリビューン』を發行する『トリビュナリスト』の黨が吾々の側に立つてゐる。(パンネケック、ヘルマン・ゴルテル、ヴィンクープ、ローランド・ホルスト、等、ローランド・ホルストはチムメルワルドに於ては中央派に屬したが、今は吾々側の有名な人物である。)

スウェーデンに於ては、青年又は左翼の黨がある。その指導者はリンドハーゲン、チューレ・ネルマン、カールソン、ストレーム、ヘーグルンド等である。ヘーグルンドはチムメルワルドに於て、『チムメルワルド』左翼の形成に參加し、今は戰爭に反對する彼の革命的鬪爭の結果として投獄せられてゐる。

デンマルクに於ては、トリエル及び彼の友人等がゐる。彼等は、大臣スタウニングを戴き完全にブルジョア化したデンマルク『社會民主黨』を脫退した、人々である。

ブルガリヤに於ては、所謂『小心者』の一派がゐる。

イタリーに於ては、黨の秘書コンスタスチン・ラザリ及び中央機關紙『アヴァンチ』の記者セラチが吾々に最も接近してゐる。

ポーランドに於ては、ラデック、ハネツキー、其他の社會民主黨の首領が『ランデス・ツェントラーレ』のなかに團結してゐる。更にローザ・ルクセンブルグ、チスツカ、其他の社會民主黨首領は、『ハウプト・フォルスタンド』のなかに團結してゐる。

瑞西に於ては、左翼派がある。この左翼派は一九一七年一月の『レフェレンダム』の動機を自國に於ける排外社會主義者及び『中央派』に對する鬪爭に利用し、一九一七年二月十一日にテッスに催されたチーリッヒ州の大會に於て戰爭に反對する原則的な革命的な決議文を手交した。

墺太利に於ては、フリードリッヒ・アドラーの友人なる青年左翼派がゐる。その一部はウィーンの『カール・マルクス』倶樂部で働いてゐたものである。この倶樂部は今日、墺太利のブルジョア政府によつて閉鎖せられてゐる。フリードリッヒ・アドラーは、彼の思慮は淺かつたが、しかし英雄的な發砲事件のために、政府から死刑にされようとしてゐる。

こゝに擧げたものは、左翼の下に存してゐる分派ではない。たゞ潮流のみを擧げたのである。

（九行略）

戰爭から暴力的でない民主的平和への出口、『戰爭に依つて』數十億の配當金を儲けた資本家諸君に對する隷屬から諸國民が解放されるには――プロレタリアートの××××には、いかなる出口もない

何人もブルジョア政府から種々の改革を要求することが出來る。又、要求すべきである。しかし何人も――最も惡趣味の感傷主義に陷ることなくして――百千の糸を以て帝國主義戰爭ともつれ合つてゐる人及び階級に向つて、彼等がこの糸を自ら裂き捨てる事を要求する事はできない。而してこれを××××××××、戰爭に關するすべての論議、戰爭に反對するといふすべての論議は單に空虛な、僞り多き文句にすぎないのである。

『カウツキー派』と『中央派』とは言葉の革命家、行動の改良主義者である。言葉に於ける國際主義者であり、行動に於ける排外社會主義の助產婦である。

チムメルワルド・インタナショナルの破滅、第三インタナショナルを創立する必要

一七、チムメルワルド・インタナショナルは、最初から、動搖勝ちな『カウツキー的』『中央派的』態度を採つた。これチムメルワルド左翼が直にこれより獨立分裂し、彼等自身の宣言を以て出現した所以である。（この宣言は瑞西に於てロシア語、ドイツ語、フランス語にて印刷せられた。）

チムメルワルド・インタナショナルの主要の缺點、その破滅の原因（何となれば、それは精神的にも政治的にも既に暗礁に乗り上げてしまつてゐる）は、排外社會主義者及び古い排外社會主義者インタナショナル――その先頭にヘーグのヴァンダーヴエルト、ヒュスマン其他が立つてゐる――と徹底的に決裂するといふ、最も重要な、實際的に最も有意義な問題について動搖勝ちであり不決斷であることに存してゐる。

チムメルワルドの多數派がカウツキー派から成つてゐることに付ては、ロシアでは未だ知られてゐない。しかし是は注意しなければならぬ根本的事實であつて、今やヨーロッパでは遍く知られてゐる。最右翼に立つドイツの愛國社會主義者ハイルマン――大元氣の愛國新聞『ケムニッチェル・フォルクスシチンメ』の記者であり、バルビュスの純排外主義的な『グロッケ』の共働者、――このハイルマンさへ（彼はいふまでもなく『社會民主主義者』であつて、社會民主黨の『統一』のために熱心に戰つてゐる）、新聞紙上に於て、中央派又はカウツキー主義とチムメルワルド多數派とは同一物である、と承認せざるを得なくなつてゐる。

一九一六年の終り、一九一七年の初めに於て、この事實は完全に確證せられた。キエンタール

宣言は平和的社會主義を非難してゐるが、全てのチムメルワルド右翼と全てのチムメルワルド多數派は平和的社會主義へ退却してゐる。即ちカウツキー一黨は一九一七年一月及び二月に發表した多數の文獻に於て是を述べた。ブロデロン及びメールハイムは社會黨（一九一六年十二月）及びC・G・T・（即ちフランスの勞働組合の全國的團體）（一九一六年十二月）の平和主義的決議文に完全な同意を表した。チュラチはイタリーに於て全黨と共に平和的社會主義の立場をとり、チュラチ自身も一九一六年十二月十七日の彼の演說に於て（それは決して偶然でない）、帝國主義戰爭を美化する國民主義的文句を述べて有頂點となつた。

チムメルワルド及びキエンタール會議の議長であつたロバート・グリムは彼の屬してゐる黨の排外的社會主義者（グロイリッヒ、ブリウゲル、グスタフ・ミュレル等）と同盟を結んで、行動の國際主義者に反對するに至つてゐる。

一九一七年一月及び二月に催された諸國のチムメルワルド派の二つの會議に於て、チムメルワルド多數派のこの二重意義的な僞善的な態度は、二三の國の左翼國際主義者に依つて形式上にも留めを刺された。即ち國際青年團の秘書で、立派な國際主義の雜誌『青年インテルナチォナーレ』

の記者であるミュンチェンベルヒ、吾が黨の中央委員會の代表者ジノヴィエフ、ポーランド社會黨のカール・ラデック、ドイツの社會民主主義者でスパルタクス團の一員であるハルトスタイン等がこの留めを刺した人々である。

ロシアのプロレタリアートは多くのものを與へられてゐる。世界の何れにあつても、勞働階級がロシアに於けるが如く革命的權力を發展せしめることはできない狀態である、しかし多く與へられたる者は、又多くを要求せられるのである。

チムメルワルドの泥濘はもはや堪へ忍ぶことができない。チムメルワルドのカウツキー派の故を以て、吾々はシャイデマンとプレハノフとの排外主義インタナショナルとの半同盟狀態のうちに留つてゐることはできない。吾々は即刻、このインタナショナルとの關係を斷絶せねばならない。吾々は單に報告事項のためにのみ、チムメルワルドに留まるべきである。

吾々は正に今日、少しも躊躇せずに、一の新しい、革命的な、プロレタリア的なインタナショナルを創立せねばならない。若くは、寧ろ、吾々は、このインタナショナルが既に創立せられ且つ既に作用を始めてゐる事を、公に承認することを恥ぢてはならない。（二行略）

かくの如き社會主義者の數は少いように見える。しかし（二行略）

重要なものは量ではなくて、

大切なことは『國際主義を振りまはす』ことではなく、最も困難な時期に於ても猶ほ行動の國際主義者として殘ることを解するや否やに存してゐる。

吾々は諒解だとか、國際大會だとかいふものに望みをかけて、滿足してしまつてはならない。帝國主義戰爭が續いてゐる限り、國際關係は帝國主義的ブルジョア的軍事獨裁の鐵の如き鎖でしめつけられてゐる。

共和主義者ミリウコフ——勞働者代表ソヴィエットの補助的政府が我慢してゐなければならぬ所の人物——は瑞西の社會主義者フィリップ・プラッテンが一九一七年四月にロシアに入ることを禁止した。プラッテンは黨の秘書であり、國際主義者であり、チムメルワルド及びキエンタール會議

の參加者である。彼は一ロシア婦人と結婚して居り、彼の妻の親戚の許へ旅行するものに外ならなかつた。彼はリガに於て一九〇五年の革命に參加し、彼はこのためにロシア監獄に監禁せられ、そこでツァールの政府に保證金を提供して解放せられたのであつたが、彼はこの保證金の返還を希望したのであつた。――しかも共和主義者ミリウコフは、一九一七年のロシアに於て、彼を追ひ返すといふことを敢てすることができたのである。こんな事實を見れば、何人も領土併合なき平和云々の、あらゆる約束、文言、宣言がブルジョアジー側に於て何程の價値も持つてゐないことを、容易に想像し得るのである。

而して英國政府がトロツキーを監禁してゐるのは何を意味するか？　更にマルトフが瑞西に強制的に止められて居り、更にトロツキーの運命が彼を待ち受けてゐるにすぎないイギリスへマルトフを誘惑しようとする希望は、何を意味してゐるか？

吾々は如何なる空想をも描かうと欲しない。如何なる自己欺瞞をも！

國際大會や會議を『待つ』ことは國際主義の裏切りものとなることを意味してゐる。何もなければ、國際主義に忠實に踏み止つてゐる社會主義者は、吾々の方へ、ストックホルムからすらも來

る事を許されない狀態であるし、又强暴な軍事的檢閲を脱れる充分の可能性があるに拘らず、彼等から一本の手紙も到着しないからである。

『待つ』といふことをせずに、第三インターナショナルを創立すること――これが吾が黨の任務である。ドイツ及びイギリスの監獄にゐる數百人の社會主義者はこれによつて活潑に元氣付くであらう。（二行略）

彼等は違法の檄文に於て、吾々の決意、カール・リープクネヒトに對する吾々の同胞的信任、今日、××××××といふ空語に反對して戰ふ吾々の決意を讀むであらう。

多く與へられてゐるものは、又、多く要求せられる。全世界に於て、眼前、ロシアに於けるが如くかくも大なる自由の支配してゐる國はない。吾々は、これらの自由を、ブルジョアジーを支持し若くはブルジョア的な『××××××』を支持するための說教に利用すべきではない。

このインターナショナルは、裏切者卽ち排外社會主義者及び動搖不確の中央派を均しく敵とするであらう。

一八、 ロシアに於ける社會民主主義者の合同については議論することを要しない。これに關しては、以上述べた所で充分である。

吾々はむしろ、リーブクネヒトのなしたる如く、二つに分れてゐるべきである。それは革命的プロレタリアートの陣列内に踏み止まることを意味する。『組織委員會』の黨、チヘーゼ、ツェレテリ等と合同するといふ思想を一分たりとも持つべきでない。是等の人々は『ラボーチャ・ガゼッタ』に於てポトレソフと協同することを忍耐し、ソヴィエットの執行委員會の負債を承認し、『祖國擁護騒ぎ』に夢中になつてゐる。

死者をして死者を葬めしめよ。

この動搖してゐる人間を助けようと思ふ人間は、これに依つて彼れ自身が動搖することをやめることから始めねばならない。

我が黨は科學的に正しく且つ階級意識の鮮明化を政治的に促進する如何なる黨名を持つべきか？

一九、 私は最後の點卽ち吾が黨の黨名問題にきた。吾々は――マルクス及びエンゲルスが自ら『共產主義者』と稱したが如く――共產黨と名付くべきである。（五行略）

『社會民主主義』といふ名稱は科學的に正しくない。マルクスは屢々これを說明した。特に一八七五年の『ゴータ綱領批評』に於ても說明した。エンゲルスは、一八九四年に、通俗的な方法でこれを繰り返した。人類は、資本主義から、直接には、たゞ社會主義へ移り得るのみである。社

會主義とは、生産機關の共同所有及び各個人の勞働給付を標準とする生産物の分配を言ふのである。（二行略）

これが第一の論點である。

第二の論點は、吾が黨の名稱（社會民主黨）の第二の部分が科學的に正しくないことである。民主主義は國家の形態の一つである。吾々マルクス主義者は各種の××の×である。

第二インタナショナル（一八八九―一九一四）の指導者たるプレハノフ、カウツキー其他の諸先生は、マルクス主義を骨拔にし、改惡した。（六行略）

私の第三の論點は次の如くである。生活自身、革命自身が、既にロシアに於て實際上、よし核心的細胞狀態として認められるばかりだとはいひながら、まさに、この新しい『國家』を作りあげつゝある事である。それはもはや本來の意義に於ける國家ではない。

これは、既に、大衆の經驗の問題であつて、指導者の單なる理論ではない。（二行略）

吾々の成立しつゝある、新しい國家も亦國家である。何となれば、吾々は××××××を必要とし、出來得る限りの最も峻嚴な訓練を必要とし、帝政黨並びにグチコフの如きブルジョア黨の企つるあらゆる反動革命の試みを徹底的に打破することを必要としてゐるからである。

しかし、吾々の成立しつゝある新國家は、既にもはや、本來の意義に於ける××ではない。何となれば、ロシアの多數の地方に於て、人民大衆自身の中からの××××團體が成立してゐるからである。それは、人民の上に立ち、人民から離れ、特權を有し、實際に於て切り離しの出來ない自恣的な人間から成つてゐるのでない。

吾々は前途を見なけらばならない。吾々は後方を見るべきでない。即ち舊い帝政的行政機關、警察、軍隊、宜吏制度によつてブルジョアジーの支配を確立せんとした所の、ブルジョア的色彩に充ちた普通の民主主義をふりかへるべきでない。

吾々は前途に於て成立しつゝある新しい民主主義を見なければならない。それは既に民主主義であることを止めた所の民主主義である。何となれば、民主主義は民衆の支配を意味して居り、××××人民自身が彼等自身を支配することは出來ないからである。

共産主義的な黨が民主主義といふ言葉を冠するとすれば、それは單に科學的に不適切なばかりでない。この言葉は、一九一七年三月後の今日、革命的民衆の眼を盲目にする扉にすぎない。この言葉は、新しい事物が、自由に、大膽に、自主的に、勞働者農民其他種々の代表者のソヴィエットの形態に於て建設されることを妨げてゐる。このソヴィエットこそ『國家』内に於ける唯一の權力であり、同時に各種の國家の『死滅』の『先驅者』であるべきである。

私の第四の論點は、社會主義の客觀的な世界的情勢を精査しなければならぬといふことである。その情勢は、マルクスとエンゲルスとが全然意識的に『社會民主主義』なる名稱が不正當な『日

和見主義的』な名稱であることを我慢してゐた時代即ち一八七一乃至一九一四年とは、もはや同じものでない。何となれば、當時即ちパリ・コムミュンの慘敗後に於ては、歷史の發展は徐々たる組織的啓蒙的仕事を根本的なものとしてゐたからである。他の種類の仕事は、未だ氣付かれてゐなかつた。無政府主義者は、理論的のみならず、又、經濟的にも政治的にも、正しくなかつた。(今日もさうである。)無政府主義者は、眼前の事實を誤算し、又、世界的情勢を認識しなかつた。何となれば、當時、英國の勞働者は帝國主義的利潤によつて腐敗せしめられて居り、パリのコムミュンは慘敗し、ドイツ(一八七一年以後)のブルジョア的國民的傾向は勝利を占め、半封建的ロシアはなほ數世紀以來の昏睡狀態にあつたのである。

マルクスとエンゲルスとは、この契機を正しく計算し、國際的情勢を正しく理解し、××××のための長い準備の問題を正しく認識してゐた。

吾々は、新しい時代の問題と特殊性とを理解すべきである。吾々は彼の不幸なマルクス主義者の眞似をしようとは思はない。マルクスは彼等について次の樣に言つて居つた。『私は龍を播種した。併し收穫は蚤であつた。』

帝國主義にまで成熟したところの、資本主義の客觀的發展が帝國主義戰爭を生み出したのである。戰爭は、全人類を絶壁の緣、全文化の沒落の緣に、人類の生命の數百萬の死と傷病とに導いて行つたのである。（一行略）

而して××××××××る瞬間、×××最初の內氣な手段を採つてゐて、ブルジョアジーになほ×××××××××を與へてゐる瞬間、かくの如き瞬間に於て、『社會民主黨の首領』、『社會民主黨の議會主義者』、『社會民主黨の新聞』の大多數（これは一つの事實である）——これらのすべては大衆に影響を與へる機關である——これらの大多數は、社會主義に不忠實となり、社會主義を裏切り、『自國』の國民的ブルジョアジーの方へ移つて行つてゐる。

大衆は惑亂し、不安となつてゐる。大衆はこれらの指導者によつて欺かれてゐる。

第二インターナショナル と言ふ名稱が朽ち果てた如く、社會民主黨と云ふ名稱も朽ち果てゝゐる。吾々がこの舊式の名稱を殘してゐるならば、それは吾々がこれによつて、以上の欺瞞を承認し、これを樂しみにやつてゐる事を意味してゐる。

『多くの』勞働者が尊敬すべき社會民主主義者であるとしよう。然らば、今日は客觀から主觀を分離すべき時である事を學ぶべきである。

主觀的立場から見れば、是等の社會民主主義的勞働者は、プロレタリア大衆の最も忠實なる指導者である。

然るに客觀的な世界的情勢は、吾が黨の舊い名稱が大衆に對する誤導を容易にし、前進しつゝある運動を妨害する、と言ふ情勢にある。所謂社會民主黨の指導者連中が各種の新聞に於ても、各種の議會內のフラクシ■ンに於ても、勞働大衆に向つて立ち現はれてゐる。これらの人々の言葉は遠くまで響く事が出來る。その行爲は遠くからでも眺められる。而して彼等はすべてデモ社會民主主義者である。彼等は、すべて、社會主義の裏切り者たる排外社會主義者との統一を主張してゐる。彼等は『社會民主黨』が裏書きした舊い手形の清算を要求してゐる……

而して反對論の根據は？……『吾々は無政府主義的共產主義者と手形を交換する事すら出來る』……。

然らば、何故に吾々は國民的社會主義者、自由的社會主義者、急進的社會主義者、これらの最

も進歩した、そして大衆をブルジョア的に欺く最も巧みなフランス共和國のブルジョア政黨と手形を交換する事を恐れるのであるか？……『勞働者は各國に於て自國の社會民主黨と心を結び付けてゐる。』吾々に向つてかういふ抗辯をする者がある。

これが唯一の反對論である。しかしこの議論はマルクス主義の教理をごみ箱に投げ入れた議論であるばかりでなく、革命の來るべき日の任務、全世界に於ける社會主義の客觀的情勢、第二インタナショナルの恥づべき破滅、プロレタリアを取りまいてゐるデモ社會民主主義者の群が實際的仕事を妨害しつゝある事實を毫も觀察しない議論である。これは廢頽した議論であり、昏睡した議論であり、半身不髓の議論である。

吾々は世界を改造しようと欲する。吾々は帝國主義世界戰爭を終滅せしめんと欲する。數千萬、數億萬の人間がこの戰爭に曳きづり込まれてゐる。大資本の利益がこの戰爭にまつはつてゐる。この戰爭は純粹なる民主的平和を通じて終局すべきものである。（二行略）

然るに吾々は餘りに心配しすぎてゐる。吾々は、吾々の『着馴れた』、『捨て難くなつた』汗じ

みたシャツに執着してゐる……。

この汗じみたシャツを脱ぎ捨て、清潔な洗濯に出す時は既に來てゐる。

（第五篇）

ロシアに於ける諸政黨

（一九一七年四月、小冊子として發表）

これはロシアに於ける現在(四月初め)の情勢に特殊な問答、及び現勢に對する諸黨派の態度中の、第一には一層主要なるもの、第二には一層主要ならざるものを公式化せんとする試みである。

第一問。——ロシアに於ける政黨の主なる分野はどうなつてゐるか?

A (カデットよりも一層右翼)。立憲民主黨よりも右翼の黨及びグループ。

B (カデット)。立憲民主黨(カデット、卽ち國民自由黨)及びそれと密接に結合せるグループ。

C (社會民主黨及び社會革命黨)。社會民主黨、社會革命黨及びそれらと密接に結合せるグループ。

D (ボリセヴィキ)。正しく言へば共產黨と稱せらるべき、そして現在では『中央委員會と聯合せる、ロシア社會民主勞働黨』と稱せられてゐる黨、卽ち、普通に所謂『ボリセヴィキ』。

第二問。——これらの諸黨派は如何なる階級を代表するか? それらは如何なる階級的立場を表現するか?

A 封建的地主及びブルジョアジー中のより多く後れたる部分。

B ブルジョアジーの大衆、卽ち資本家、及び工業的、ブルジョア的イデオロギーを持つ地主。

C　小企業家、小地主又は中産階級地主、小農又は多かれ少かれ有福な農民、ペチ・ブルジョアジー、並にブルジョア的見地に隷屬せる勞働者。

D　階級意識ある勞働者、プロレタリアートの階級に入れられる日傭勞働者と農民中の最も貧しい階級（半プロレタリアート）

第三問。――彼等の社會主義に對する關係如何？

A及びB　無條件に反對である。蓋し社會主義は資本家及び地主の利潤を脅威するからである。

C　社會主義には贊成であるが、それに就いて考慮したり又はそれの實現のために何等かの實際的手段を講ずることは未だ早すぎる。

D　社會主義に贊成。勞働者、兵卒及び農民代表委員會は、その實現のために直ちにあらゆる實際的にして適當なる手段を講じなければならぬ。（これらの手段の性質に就いては第二十問及び第二十二問を見よ。）

第四問。――彼等は如何なる政府形態を今欲するか？（七行略）

第五問。――ロマノフ王朝の復古に對する彼等の態度は如何？

A　贊成、然しそれは注意と秘密とを以てなされなければならぬ、民衆は恐ろしいから。

B　グチコフが權力を有するが如く見えた時にはカデットはニコラスの弟又は子を王位に卽けたいと考へてゐたが、民衆が擡頭した後にはカデットは王政復古に反對するやうになつた。

C及びD　如何なる種類の王政復古にも無條件に反對である。

第六問。――彼等は權力奪取を如何に考へるか？　彼等は何を『秩序』と呼び、又何を『無秩序』と呼ぶか？（十行略）

第七問。――吾々は假政府を支持すべきか？

A及びB　勿論、蓋しそれは現在資本家の利益を擁護する唯一の目的であるからである。

C　然り、けれども假政府が勞働者、兵卒及び農民代表委員會との協定を實行し、『諮問委員會』と協議するといふ條件附にて。

D　否。資本家をして假政府を支持せしめよ。吾々は全民衆を勞働者、兵卒及び農民代表委員會の完全不可分なる權力のために準備しなければならぬ。

第八問。――吾々は單一權力に贊成か又は二重權力に贊成か？

A及びB　資本家及び地主の掌中に於ける全權力に贊成。

C　二重權力に贊成。勞働者、兵卒及び農民代表委員會は假政府に對する『統制權』を行使すべきである。然しこの統制權は幻想的なものであることをやがて證明するであらうなどと考へることは有害である。

D　全國を通じて頂上から基底に至るまで、勞働者、兵卒及び農民代表委員會の掌中に全權力を握るべきことに贊成である。

第九問。――憲法議會は召集せらるべきか？

A　必要なし、それは地主を傷つけるかも知れないから、農民が憲法議會に於いて地主の土地を沒收すべきことを決議すると想像せよ！

B　然り、けれども時日を約束することなしに。更に、學識ある教授にも相談すべきである。といふのは、第一に、ベーベルが既に法律家は最も反動的な人間であることを指摘したからであり、又第二に、すべての革命の經驗は民衆の道はそれが教授の掌中に委せられる時には失はれることを示してゐるからである。

C　然り、そして出來る限り速かに。時日に就いては、吾々は既に『諮問委員會』に於いて二百回も討議した。そして愈々明日第二百一回目の討論に於いて決定的に定めるであらう。

D　然り、そして出來る限り速かに。而も成功するため及び眞に召集するためには、次の一條件が必要である。卽ち吾々は委員會(ソヴィエット)の數を增加し、力を强めなければならぬ、吾々は大衆を組織し且つ××させねばならぬ。かくしてのみ議會は確保されるであらう。

第十問。――國家は本來の型の警察及び常備軍を必要とするか？（八行略）

第十一問。――國家は本來の型の官僚制度(チノヴニクス)を必要とするか？

A及びB　勿論。彼等のうちの十中の九は地主及び資本家の子弟である。彼等は依然として特權ある、實際に動かすべからざる人物の一團體を形成すべきである。

C　恐らく今日は、既にパリ・コムミュンによつて提出された問題を提出すべき適當な時機でない。

D　必要はない。すべての官吏は單に民衆によつて選擧せらるべきのみならず、また彼等によつて解任の權利が保留さるべきである。すべての代議員に於いても同樣である。彼等の俸給は熟練勞働者のそれを超過しないであらう。彼等は漸次に全國的な民警及びその諸部隊によつて取つ

て代へられる。

第十二問　――士官は兵卒によつて選擧されねばならぬか？（六行略）

第十三問。――兵卒による上官の勝手な免職は望ましいか？（六行略）

第十四問。――この戰爭に贊成か反對か？

A及びB　無條件に贊成である。といふのは、それは、互にいがみ合ふ勞働者の間に於ける軋轢によつて、資本家に未曾有の利潤を齎らし且つその支配を永久化することを約束するからである。この戰爭はカイゼルを退位させる特別の目的を有する國民的防衛の戰爭だと稱することによつて、勞働者は××××ねばならぬ。

C　一般に吾々は帝國主義戰爭に反對であるが、然し吾々は喜んで自ら馬鹿にされ、そしてこの戰爭を『革命的防衛』の戰爭と稱し、又グチコフ、ミリウコフ一派の帝國主義政府によつて行はれる帝國主義戰爭を支持する。

D　すべての帝國主義戰爭に對して、その中に吾々の假政府が含まれるところの、この戰爭を行ふすべてのブルジョア政府に對して、絕對に反對である。ロシアに於ける『革命的防衛』に絕對に反對である。

第十五問。――吾々はツァールとイギリス、フランス等々との間に（ペルシヤの抑壓、支那、トルコ、オーストリアの分割等々のために）締結された掠奪的國際條約に贊成か反對か？

A及びB　絶對に贊成である。それと同時に吾々はこれらの條約を發表しようなどゝ考へてはならぬ。といふのは、英佛の帝國主義資本もそれを好まないし、又政府もロシアの資本も民衆に、そのあらゆる汚い實際を敎へることには耐え得ないからである。

C　反對である、然し吾々は諮問委員會が、大衆の間に於ける一齊の『運動』に後援されて、資本家政府を『左右』せんことを期待する。

D　反對。吾々の全任務は單に次の如くである。即ち、すべてこの種類のことを資本家政府に期待することの全く無駄なこと、（一行略）

に就いて、大衆を啓蒙すること、これである。

第十六問。――併合に贊成か反對か？

A及びB　若し併合がドイツの資本家及びその强盜の親分カイゼルによつて行はれるならば、吾々はそれに反對である。然し若しイギリス人によつて行はれるならば、吾々は反對ではない、

蓋し彼等は『吾々の』同盟者であるから。若しロシアの國境内に於いてツァールによつて壓迫されてゐる人種を强力的に維持するところのロシアの資本家によつて行はれるならば、吾々は贊成である。といふのは、吾々はこの場合には併合といふ言葉を使用しないからである。

C　併合には反對である。然し吾々は資本家政府から併合を否認する『約束』を得ることが可能であらうと思ふ。

D　併合反對。併合を否認する資本家政府の約束は、すべて欺瞞である。これを暴露することは極めて簡單である、即ち各國民がそれ自身の資本家の羈絆から解放さるべきを要求して見れば、直ぐ分る。

第十七問。――『自由公債』に資成か反對か？

A及びB　全然贊成である、といふのは、それは帝國主義戰爭、即ちどの資本家の集團が世界を支配するかを決定する戰爭の遂行を有利ならしめるからである。

C　贊成である、といふのは、『革命的防衛』に關する吾々の非論理的な態度は、吾々をして明かにインタナショナリズムの道に背くの餘儀なきに至らしめるからである。

D　反對である、といふのは、戰爭は資本家が資本家と同盟して、資本家の利益のために行ふものであつて、依然として帝國主義的であるからである。

第十八問。――吾々は國民の平和の欲求を表現する任務を資本家政府に委すべきか否か？

A及びB　委すべきである、といふのは、フランス共和國の愛國社會主義者の經驗は、かやうな過程によつて如何に民衆が欺瞞されるかを最もよく示してゐるからである。口では何を言つてもいいが、實際に於いては吾々がドイツ人からかち取つたすべての征服(彼等の植民地)を維持し、又この强盜によつて行はれたすべての征服をドイツ人から奪取せねばならぬ。

C　委すべきである、蓋し吾々は未だペチ・ブルジョアジーが資本家に置いてゐるすべての根據なき期待を放棄してゐないからである。

D　否、といふのは、階級意識ある勞働者は資本家階級に如何なる期待をも持たず、又かゝる期待の無根據に就いて大衆を啓蒙することは吾々の職分だからである。

第十九問。――すべての×××は廢止されねばならぬか？

A及びB　否、イギリス、イタリー及び聯合國の×××は確かに廢止すべからざるものであるが、唯だドイツ、オーストリア、トルコ及びブルガリアのそれは廢止さるべきである。といふのは、それらに對する勝利は吾々の利潤を十倍も增加するであらうから。

C　その後には若干の『秩序』が保たれねばならぬ、そして發端はカイゼルからなさるべきである。聯合國の×××は今暫く待つてもよからう。

D　革命は一定の順序で進行するものではない。(二行略)

第二十問。――農民は直ちに地主の一切の土地を取るべきか？　(九行略)

第二十一問。――吾々の土地の管理のため及び一般にすべての農村問題のために農民代表委員會のみに吾々自身を制限すべきか？

A及びB　地主及び資本家は農村問題に於いて農民代表委員會の全權に全然反對である。然し若しこの委員會が不可避であるならば、吾々はそれに順應しなければならぬ。蓋し富農は何と言つても資本家であるから。

C　吾々は當分委員會を承認しなければならぬかも知れぬ。蓋し『原則に於いて』吾々は農業賃銀勞働者の別個の團體の必要を否定しないからである。

D　吾々自身を一般的な農民代表委員會のみに制限することは不可能であらう。といふのは、富農は、常に農場人夫、日傭勞働者及び貧農を傷害し又は欺瞞しようとしてゐるところの同一の資本家階級であるからである。吾々は直ちに農業人口中のこの後者の階級の特別の組織を、農民

代表委員會内部及び農業勞働者代表特別委員會の形態との兩者に於いて組織しなければならぬ。

第二十二問。――民衆は最も大きく且つ最も有力な資本主義の獨占組織たる銀行、工業シンヂケート等々をその掌中に握るべきか？

A及びB　否、決して、といふのは、それは地主及び資本家を傷つけるであらうから。

C　一般的に言へば、吾々はかやうな團體を全民衆に引渡すことに贊成であるが、然し今この狀態を考へ又はそのために準備することは、極めて時機を得ない。

D　吾々は直ちに勞働者代表委員會、銀行從業員代表委員會及びその他を、すべての銀行を單一國民銀行に統一するため、次に銀行及びシンヂケートに對する勞働者代表委員會の統制のため、また次にはその國有化、即ち、それを全民衆の所有に移すために、適當であり又完全に實現されるやうな、すべての手段を取る準備をしなければならぬ。

第二十三問。――萬國のすべての勞働者の友愛的團結を設立し且つ實現するためには、如何なる形態の社會主義インタナショナルが今や諸國民に取つて望ましいか？

（一頁略）

第二十四問。――戰線に於ける交戰國の兵卒間の××は奬勵されねばならぬか？

A及びB　否。それは地主及び資本家の利益のためによろしくない。蓋しそれはその羈絆からの人類の解放を促進するであらうから。

C　然り、それはよろしいであらう。然し吾々はかやうな××の奬勵が直ちにすべての交戰國で行はれようとは、十分に信じてゐない。

D　然り、それは××××××××××ある。兩方の××××××××××××××××××××××××ことは、戰爭中のすべての國々に於いて××××××である。

第二十五問。――諸政黨の性質及び特徴を示す旗の色は何がよいであらうか？

A　黑、といふのはこれは眞の黑手組（ブラック・ハンドレッド）であるからである。

B　黃、蓋しそれは强制からではなくて選擇によつて資本に奉仕する勞働者の國際的旗幟であるからである。

C　桃、蓋し彼等の全政策は薔薇香水の政策であるからである。

D　赤、蓋しそれは國際プロレタリア××の表象であるからである。

（第六篇）　戰術についての書翰

（一九一七年四月執筆、同年夏、小册子として發表）

序言

私は一九一七年四月四日、ペテルスブルグに於けるボリセヴィキの一會合で、表題に掲げた問題について演說する機會を持つた。聽者は勞働者兵卒代表ソヴィエットの全露會議の代議員であつたが、此人々はすぐにも故鄕に歸らねばならぬ人々であり、從つて私に少しも延期を許し得なかつた。會合果てたる後、議長であつた同志ジノヴィエフは、同會合の名に於て私に提議するに、この講演を直ぐ樣、ボリセヴィキ並にメンセヴィキの代議員の會合で繰り返すことを以てした。其會合では、ロシア社會民主黨の合同問題が討議される筈であつた。

私は私の講演を、直ぐ繰返すことを困難だとは思つたが、これに否と答へる權利がないと考へた。何となれば、その旅立ちのために實際上、私に時間を許し得ない所の、私と同意見の同志やメンセヴィキの人々が私の講演を要求してゐたからである。

私は講演の際、一九一七年四月七日の『プラヴダ』第二十六號に公にした私のテーゼを紹介しておいた。

私のテーゼ並に私の講演はボリセヴィキの間にすら、また『プラヴダ』編輯局内にすら、意見の相違を生み出した。吾々が相談の後、一致して到達した結論は、この意見の相違を公然、討論しつくし、この方法に依つて、一九一七年四月二十日にペテルスブルグに催さるべき我黨（中央執行委員會によりて合同したロシア社會民主勞働黨）の全露會議に材料として供給しよう、といふことであつた。

討論のためにする、以上の決定を遂行するために、私はまた次の書翰を公にする。これは此書翰に依つて問題のあらゆる方法に亘る討究をすることを要求する意味からでなく、たゞ勞働階級の運動の實際的任務にとつて特に根本的な主要論點を簡潔に記るすといふ希望からであつた。

書翰第一

情勢の批判

マルクス主義は階級間の相互關係及び各個の歷史的狀態の具體的特徵を最も精確に、客觀的に觀察することを吾々に向つて要求する。吾々ボリセヴィキは、政策を科學的に基礎附けるといふ立

場から絶對に必要な此要求に、常に正しく從ふことを力めてきた。

『吾人の教理は獨斷論にあらず、行動のための指針のみ』――マルクスとエンゲルスとは常にかく語つてゐた。この二人が常に『法式』の空譜記や單純な繰返しを嘲笑してゐたのは正しいことである。『法式』は高々、一般的任務を表現し得るのみのものであつて、歷史的發展の各個特別の段階々々に於ける具體的な政治的經濟的狀態に應じて、修正さねばならぬものである。

革命的プロレタリアートの黨は、精細に確められた客觀的事實の如何なるものに依つて、その行動上の任務及び形式の決定へ導かれ行くべきであるか？

私は、一九一七年四月十四、十五、二十一、二十二日の『プラウダ』に公にした、私の最初の『國外よりの書翰』（『第一革命の第一段階』）に於ても、私のテーゼに於ても、『ロシアに於ける眼前の情勢の特徵』は革命の第一段階より第二段階へ移る過渡といふことだ、と斷定した。

（五行略）

この第一段階は何所に成立してゐるか？　それは國家權力がブルジョアジーに推移したと云ふ點に存してゐる。

一九一七年の三月革命に至るまで、ロシアに於ける國家權力は一の舊い階級、卽ちロマノフ家のニコラスを先頭とする封建的貴族的地主階級の手中に在つた。

革命以來、權力は一の新しい階級、卽ちブルジョアジーの手中に在る。

國家權力が一の階級の手から他の階級の手に移るといふ事は×××最も重要な根本特徴であつて、それは此概念の嚴格な經濟的意味に於ても、また實際の政治的意味に於ても然りである。

この意味に於て、ロシアに於けるブルジョア革命若くはブルジョア民主革命は既に終つたのである。

この點について吾々は、『古いボリセヴィキ』と好んで自稱してゐる異論家連中の反對論を聞くのである。彼等はいふ。吾々はブルジョア民主革命が『プロレタリアート及び農民の×××民主的××』といふ終結に達するのだと常に主張してゐたではないか、ブルジョア民主的農業革命は未だ

終らないではないか、反對に、この革命がまだ始まらないと言ふ事の方が事實ではないか、と。

私は答へる。ボリセヴィキの標語と思考過程とが一般的に正しかつたことは歷史が證明した。しかし具體的には、事實は人々の(それが誰れであるにしろ)期待し得た所とは頗る異つた形――卽ち獨創的な、特質的な、色彩の多樣な形で表はれたのである。

この事實を無視し忘却することは、かの『古いボリセヴィキ』と同列の誤りを犯すものである。この『古いボリセヴィキ』は新しい、生々した實在の特質を探求する代りに、無意味な空語記の法式を繰り返して、我が黨の歷史に大再ならず不快な役割を演じた人々である。

『プロレタリアート及び農民の×××民主的××』はロシア革命に於て既に實現してゐる。何となればこの『法式』は階級間の相互關係を意味するものであるが、この交互關係、この共働關係を現實化する具體的な政治制度をいふものではない。『勞働者及び兵卒代表者ソヴィエット』――これに既に事實の上に實現した『プロレタリアート及び農民の×××民主的××』である。

この法式は既に古くなつてゐる。生活はこれを法式の王國から實在の王國に導き、これを血肉を以て充たし、具體化し、かくして是れを修補してゐる。

今日吾々の眼前には、既に他の新しい任務が置かれてゐる。それはこの獨裁の内部に於けるプロレタリア的要素（即ちコムミュンへ移つて行くために×××に反對してゐる國際主義的、『×主義的』要素）と小所有者及び小市民の要素（即ちチヘーゼ、ツェレッテリ、ステクロフ、社會革命黨等、等、其他の革命的祖國擁護主義者、コムミュン運動の敵、『ブルジョアジー及びブルジョア政府の支持』の主張者）との間の分裂である。

今日ただ『プロレタリアート及び農民の×××民主的獨裁』の方式にのみ低徊する者は、生活の後に退却し、これに依つて實際上に小ブルジョアジーへ推移し、プロレタリア的階級闘爭に反對するものである。吾々はこの法式を革命以前の『ボリセヴィキ』の（『古いボリセヴィキ』の、と云つた方がいゝ）骨黨品の文庫の中に投げ入るべきである。

プロレタリアート及び農民の×××民主的獨裁は既に實現した。しかし、それは非常に重大な、多くの修補を含んだ、また異常に獨創的な方法に於て實現したものである。私は此の點を、次の書翰に於て特に論ずるであらう。マルクス主義者が生々した生活、實在の正確なる事實を顧慮すべきであり、昨日の理論――それは高々、單に一般的根本傾向を表徴し、單に生活の多樣性に接

近してゐるものにすぎない――に執着すべきでない事は、今日、特に疑ふべからざる眞理に屬してゐる。

『親愛なる友よ、すべての理論は灰色であるが、生活の黄金樹は綠色である。』

ブルジョア革命の『終結』の問題を古い方法で取扱ふ者は、生々したマルクス主義を死んだ文字の犧牲にするものである。

ブルジョアジーの支配に次いで、プロレタリアート及び農民の支配が其×××を立て得るし、立てねばならぬ。――これが古い方法に依る考へ方である。

生々した生活に於ては、既に他のことが起つてゐる。それは一つのものと他のものとの異常に獨創的な、新しい、未だ無かつた樣な組み合せとなつて表はれてゐる。時を同じくし、相並んで、ブルジョアジーの支配（ルヴォフ及びグチコフの政府）とプロレタリアート及び農民の×××民主的獨裁とが成立してゐる。後者は自由意志を以て權力をブルジョアジーに代行せしめ、自由意志を以て其補助物となつてゐるのである。

何人もペテルスブルグに於て權力が事實上、勞働者及び兵卒の手に存してゐる事を忘れてはい

けない。新政府は彼等に向つていかなる暴力をも行使しなかつたし、又、行使し得ないのである。何となれば、そこには警察も、人民から離れてゐる軍隊も、人民の上部に立つ官吏も存在しないからである。それは一つの事實である。しかり、パリ・コムミュン型の國家の特徴を成す所の事實である。この事實は古い法式とは適合しない。吾々は法式を生活に適應せしむることを理解せねばならぬ。吾々は『プロレタリアート及び農民の獨裁』なる一般的法式について既に無意味となつた言葉を繰り返すべきでない。

より善く説明するために、他の方面から此問題を取扱つてみよう。

マルクス主義者は階級關係の分析てふ精密な基礎を棄てゝはならない。今やブルジョアジーが權力を握つてゐる。そして農民の大衆——彼等も亦、特別の種類、特別の層、特別のブルジョアジーではないか？　この社會層がブルジョア民主革命を完成する事によつて權力を獲得し得ないと、どうして言へるだらうか？　何故に其れが不可能であるべきであるか？

古いボリセヴィキは屢々かように論議してゐる。

私は答へる。——このことは全然、可能である。しかしマルクス主義者は瞬間的情勢の批判に

際して、可能性から出發すべきでなく、實在性から出發せねばならぬ。

實在が吾人に示してゐる事實は、自由に選擧された兵卒及農民ソヴィエットが自由に第二の、補充的政府となり、自由にこれを補ひ展開し、完成してゐることである。同樣に彼等は自由に權力をブルジョアジーに托してゐる。——この現象は毫もマルクス主義の理論と『衝突』するものではない。何となれば、吾々はブルジョアジーが單に暴力を以てのみならず、又、大衆の意識の缺乏、臆病、無組織性を利用して自己保存をやることを、常に知つてゐたし、又、繰り返へし指摘してゐたのである。

今日の現實に當面し、事實を回避して『可能性』なるものについて談じようとするのは、正に笑ふべきことである。

農民がすべての土地と權力とを手に入れるようになることも可能のことである。私は此可能性を忘れはしないし、又、私の思考範圍を今日の情勢のみに限らうともしない。むしろ私は直接に精確に新しい現象、即ち農業勞働者及び貧農と地主との深刻化しつゝある分裂を考慮して、農業綱領を法式化さうとするものである。

しかし、まだ外のことも起り得る可能が有る。農民が小ブルジョア黨たる社會革命黨――ブルジョアの影響の下に陷沒して祖國擁護主義に移つてしまひ、今日まで一度も選擧期日の定められてゐないに拘らず、憲法制定集會のことで自ら慰めてゐる所の――の忠告に聽從するといふことも可能である。

農民がブルジョアジーとの取引を保持し、繼續するといふことも可能である。この取引は農民が勞働者農民代表者ソヴィエットの媒介に依つて、形式上のみならず事實上にも締結してゐるものである。

種々様々のことが可能である。吾々が農民運動と農民綱領のことを忘却したならば、それは最も大きい過失となるであらう。しかし此の協調の事實――若くは一層精確な、ヨリ法律的でなく、ヨリ經經的な階級的言ひ方を用ふるならば――農民とブルジョアジーとの間の階級的共働の事實が示してゐる現實を忘れることは、同様に愚劣なことであるであらう。

この事實が事實たることを止むる時、即ち農民がブルジョアジーより分離し、ブルジョアジーに反抗して土地×××、ブルジョアジーに反抗して××××を握るに至る時、――この時に至つて、そ

にはブルジョア民主革命の新しい段階となるであらう。このことについて特別に論ずる必要がある。

農民がブルジョアジーと取引を結んでゐる今日、以上のような未來の段階の可能性を考へて日々の義務とを忘却するマルクス主義者は、小ブルジョアになるものである。何となれば、彼はこれによつて實際上、プロレクリアートに向つて、小ブルジョアジーに對する信任を說敎することになるのである。(この小ブルジョアジーたる農民は、ブルジョア民主革命の範圍に於て、既にブルジョアジーと分離せねばならぬものである。)農民がブルジョアジーの尻尾でなくなり、社會革命黨、チヘーゼ、ツェレッテリ、ステクロフ等がブルジョア政府の附加物でなくなる所の、可憐な、甘い未來の『可能性』のために――この愉快な未來の『可能性』のために、マルクス主義者は不愉快な現在――即ち農民が一時的ながら猶ほブルジョアジーの尻尾となつて居り、社會革命黨と社會民主黨とが、猶ほ一時的ながらブルジョア政府の附加物たる役割を止めてはゐない所の現在――を忘るべきでない。

これを忘るゝ人間は、甘いルイ・ブラン、甘いカウツキー黨と異る所がない。しかし彼は決して

革命的マルクス主義者ではない。

然し吾々は主觀主義に陷る危險を避けねばならない。農民の運動の猶ほ殘つてゐる此の未完成の革命、このブルジョア的民主的性質を有する革命を『跳躍』して、社會主義革命に進まうとする希望に惑溺する事を避けねばならぬ。

若し私が『ツァールなき勞働者政府を立てよ』と言つたとすれば、如上の危險が私を襲ふた事になる。しかし私はかく言はなかつた。私は多少違つたことを言つたのだ。私はロシアに於て勞働者、農業勞働者、兵卒、農民ソヴィエットの外に如何なる政府も(ブルジョア政府のことは離れて)在り得ないと言つたのであつた。私は今日、ロシアに於て政府の權力はグチコフ及びルヴォフの手からただ此のソヴィエットに對してのみ移り得るのであり、若し吾々が日常の言葉でなく、科學的にマルクス主義的な表現をとり、階級的性質の言葉を用ふるならば、ソヴィエットの中には小ブルジョアジーが大多數を占めてゐるのである、と云つたのである。

私は私のテーゼ中に於て、今日なほ存在してゐる農民其他の小ブルジョア的運動を飛び越えてしまふこと、勞働者政府を主張して『權力××』の遊戯を試みること、既に古びてゐるブランキ

スト的冒險を企つること等、を絶對に排除した。私は直接にパリ・コムミュンの經驗を引照した。パリ・コムミュンの經驗は、既にマルクスが一八七一年に、エンゲルスが一八九一年に詳細に示した如く、絶對にブランキズムの不可なるを證し、大多數自身が意識的に登場する割合に應じて、大多數者の直接な無條件的な支配と大衆の活動とが確保せられるものである事を示してゐる。

私はテーゼ中に絶對的明確を以て勞働者、農業勞働者、兵卒、農民ソヴィエットの内部に於ける勢力の鬪爭を究明した。この點に關して何等の疑點をも殘さない爲めに、私はテーゼ中に二度までも『大衆の實際的要素』に適合した、困難な、忍耐を要する『啓蒙』の仕事の必要を力説した。

紳士プレハノフ等の如き、マルクス主義の無學者若くは裏切者は、無政府主義やブランキズム等について色々叫び立てるがよからう。考へ且つ學ばんと欲する人は、勞働者ソヴィエットが決定的に人民大多數者の直接の組織であるに反し、ブランキズムが少數者に依る權力奪取を意味してゐることを了解せねばならない。ソヴィエット内部の勢力の鬪爭を追ふといふ仕事は、斷じてブランキズムの泥濘に陷り得るものではない。この仕事は無政府主義の泥濘にも陷り得るものでもない。何となれば無政府主義はブルジョアジーの支配よりプロレタリアートの支配へ移る過渡期に於

ける國家及び國家權力の必要を否定するからである。私はあらゆる誤解を一掃する明白さを以て、この期間に於ける國家の必要を辯明しておいた。しかし此國家は、マルクス及びパリ・コムミュンの經驗に依れば、通俗のブルジョア的××國家ではなくして、××××、××××××××××、人民の上に立つ官僚のない國家である。

紳士プレハノフは彼の雜誌『イエヂンストヴォ』に於て、聲を涸らして無政府主義について吼え立てゝゐる。しかし彼は是に依つてもう一度、彼のマルクス主義との決裂を證明したに過ぎぬ。私は『プラウダ』二十六號に、マルクス及びエンゲルスが一八七一年、一八七二年、一八七五年に國家に就いて何を敎へたかを語るよう要求したが、プレハノフは此問題の本質については沈默を以て答へ、且つ憤怒したブルジョアジーの如くに叫び立てざるを得なくなつてゐる。

過去のマルクス主義者プレハノフは、國家に關するマルクス主義の敎理を絕對に理解してゐなかつた。この無理解の根本は、彼がドイツ語で書いた無政府主義論の中にも認められる。

* * *

さて吾人は同志カメネフが『プラウダ』二十七號に發表した手記の中で、私のテーゼ及び上述

の私の見解に對する彼の『意見の相違』をいかに記述してゐるかを觀察しよう。これは以上述べた所をより精確に了解するに役立つであらう。

同志カメネフは次の如く書いてゐる。『同志レーニンの一般法式は、ブルジョア民主革命が既に終りを告げたと云ふ認識から出發し、この革命が速かに社會主義革命に轉化するといふ計算の上に立つてゐる限りに於て、到底受取り難きものである。……』

二つの大きな過失がこの點に存してゐる。

第一の過失。ブルジョア民主革命の『終局』の問題が不正當に持ち出されてゐる。客觀的現實と相應しない、抽象的な、單純な、言はば單色的な見解が此問題にくつついてゐる。此問題をかくの如く持ち出す人間、今日、『ブルジョア民主革命が終りを告げたか否か』といふ質問を持ち出し、それ以上のことを問はない人間——この人間は、非常に複雜な、少くとも『二色を持つてゐる』現實を見る可能性を自ら奪つてゐるものである。これは理論に於てそうであり、そして實行上には小ブルジョア的革命の前に無力に降伏するものである。

事實はどうか。現實は吾人に二つのことを示してゐる。第一は權力がブルジョアジーに推移した

ことである。（普通の種類の所謂『終りを告げたブルジョア民主革命』である。）第二は現實の政府と共に、プロレタリアート及び農民の×××民主的獨裁を表現する所の、一の附屬的政府の存在してゐることである。この『補助的政府』は自ら權力をブルジョアジーに代行させ、自らブルジョア政府に結び付いてゐる。

さて此現實は、同志カメネフの『ブルジョア民主的革命は未だ終らない』といふ、舊いボリセヴィキ的法式と合致するだらうか？　否、この法式は最早古くなつてゐる。それはもう役に立たない。それは死んでゐる。これを復活しようとする試みは無益である。

第二の過失。これは實際的問題である。今日、ブルジョア政府と離れた、一の特別な『プロレタリアート及び農民の×××民主的獨裁』がロシアに於て成立し得るや否やを、誰れが知つてゐよう？　一の未知數の偉大なもの〻上に、マルクス主義者の戰術は築かるべきでない。

然し此事がなほ起り得るとすれば、そのための方法はたゞ一つある。それは運動中のプロレタリア的××主義的要素が小ブルジョア的要素から速かに、文句なしに分離することである。

何故であるか？

それは全ての小ブルジョアジーが、偶然からでなく、必然的に排外主義（＝××××主義）に陷り、ブルジョアジーを『支持』するに至り、その從屬物となり、ブルジョアジーなくしては生活することができぬといふ恐怖に襲はれてゐるからである。

小ブルジョアジーは今日既に權力を握り得る樣になつてゐるが、しかし其意志がない。かゝる時、如何にして小ブルジョアジーを權力掌握へ推し遣ることができるであらうか？　それは此の小市民の恐怖心から解放されたプロレタリア的な×××、プロレタリア的階級闘爭がこれより分離するに依つてのみ可能である。プロレタリアの——小ブルジョア主義の感化から、言葉でなく、行動に於て解放されてゐる所の——結合のみが、小ブルジョアをして一定の事情の下に於て權力を握らぬばならぬように仕向け得るものである。勿論、このことはグチコフやミリウコフが——繰り返していふが、一定の事情の下に於て——チヘーゼ、ツェレッテリ、社會革命黨、ステクロフ其他の單獨支配のなかに這入り込むであらうといふ事と衝突するものでない。何となれば彼等の全部は何時も『××××主義者』であるからである。

速かに決定的に、文句なしにソヴィエットのプロレタリア的要素（卽ちプロレタリア的×××を

小ブルジョア的要素から切り離す人は、二つの有り得べき場合に處して、運動の利益を正しく表現して謬らないであらう。二つの場合とは、ロシアが一の特別な、獨立な、ブルジョアに從屬しない所の『プロレタリアート及び農民の獨裁』を經驗する場合、並に小ブルジョアジーがブルジョアジーから分離することが出來ずに永久に(社會主義に至る日まで)ブルジョアジーと吾々との間を浮動する場合を指す。

何人にても自己の活動に於て『ブルジョア的民主的革命は未だ終らない』といふ單純は法式にのみ捕はれる人は、是れに依つて、小ブルジョアジーが無條件にブルジョアジーから獨立する能力があるといふ保障を提出するものである。彼は是に依つて重大の瞬間に降伏をなし、小ブルジョアジーの好機嫌や不機嫌に全く依賴することゝなる。

序に言ふ。プロレタリアート及び農民の獨裁といふ『法式』に關しては、私が私の著書『二つの戰術』(一九〇五年七月)のなかに特に次の如く力說した事を回想して貰ひたい。

『プロレタリアート及び農民の××××××××は、世界に於けるあらゆる事物の如く、過去及び未來を有してゐる。その過去は專制主義、封建主義、帝政、特權であり……その未來は——×

×××制度に對する鬪爭であり、雇主に對する鬪爭であり、雇主に對する賃銀勞働者の鬪爭であり、社會主義のためにする鬪爭である。……』

同志カメネフの誤謬は、一九一七年に於て、この×××民主的獨裁の過去のみを眼中に置くことに存してゐる。しかし×××民主的獨裁にとつて、既に未來が現實のなかに現れてきた。何となれば賃銀勞働者と小企業者との利益と政策とは、既に分離してしまつたからである。特に『祖國擁護主義』や帝國主義戰爭に對する關係の如き、重要問題に於てさうである。

私は同志カメネフの上記の觀察の第二の誤謬が、この點に存してゐることをみる。彼は私の法式が『この(ブルジョア的民主的)革命が社會主義革命に不可避的に轉化』すると『計算してゐる』と言つて、私を非難してゐる。

これは不當である。私は吾々の革命が一の社會主義革命に不可避的に轉化すると計算しなかつたのみならず、寧ろ私は斷乎として是れを警告し、私はテーゼ第八に於て『吾人の直接の任務は社會主義を實施することではない』と宣明してゐる。

吾々の革命が卽時に社會主義革命に轉化すると計算してゐる人間が、社會主義の實施を直接の

任務とすることに反對し得ないのは、明白なことでないか？

それのみでない。ロシアに於ては、決して『コムミュン國家』（卽ちパリ・コムミュンの型により て組織された國家）を『卽座に』實施することはできぬ。何となれば、それには有らゆる（若くは大多數の）ソヴィエットの代表者の大多數者が社會革命黨、チヘーゼ、ツェレッテリ、ステクロフ其他の戰術及び政策の全誤謬と全害惡とを認識することが必要だからである。

私は私が此範圍については『忍耐深き』啓蒙事業のみを計算してゐることを、極めて明白に宣言してきてゐるのである。（『卽時に』實現し得べき變化を達成するために『忍耐深く』やることが必要でないか？）

同志カメネフは少しばかり『忍耐深くなく』駈け出しすぎてゐる。彼はパリ・コムミュンが『卽座に』社會主義を實施しようと欲したのだといふ、ブルジョア的非難を繰り返してゐる。これは當らないパリ・コムミュンは餘りに長い間、社會主義の實施を躊躇してゐたのであつた。コム・ミュンの眞の意味は、ブルジョアがこれについて求めてゐる樣な點に存せず、寧ろコムミュンが特別の型の國家を創造しようとした點に存してゐる。かくの如き國家は既にロシアに於て生れてゐる。そ

れは勞働者及び兵卒ソヴィエットである！

同志カメネフは事實を熟知してゐない。ソヴィエットを熟知しない。ソヴィエットがその社會的政治的性質上、コムミュンの國家の型と同じである事を熟知してゐない。彼は事實を探求する代りに、私が僭越にも『卽座の』未來について『計算』してゐると語つてゐる。此故に、彼は不幸にして、勞働者兵卒代表者ソヴィエットが何であるか、ソヴィエットが議會共和國よりヨリ高級の型を意味するものであるや否や、ソヴィエットが人民に有要であるや否や、民主的なものであるや否や、例へば食料の缺乏に對する鬪爭のために適切な制度であるや否や、等の問題について、多くのブルジョアと同じ方法を繰返す結果になつてゐる。――彼はこれ等の緊切な、現實的な、生活自身におこつた問題について注意を集めず、却つて『卽座の變化の計算』といふ、空虛な、見掛けは科學的だが現實には內容のない、教授先生式の無生命な問題に注意を集めてゐる。

空虛な、愚劣な、問題の取扱ひ方である。私は單に、特に、勞働者、兵卒及び農民が食料生產の向上、そのより良い分配、兵卒其の他のより良い給養等、等の實際上の困難な問題を、官吏や警察官よりも良く仕遂げるといふことを『計算』したに過ぎない。

私はソヴィエットが人民大衆の獨立性を議會的共和國よりもヨリ速かにヨリ良く實現するであらうと確く信ずる。(國家のこの二つの型をより詳しく比較することは他の書翰に讓る。)ソヴィエットは、何をなし得るか、即ち社會主義のために如何なる方法をとり得るかといふ事をヨリ良く、ヨリ實際的に、ヨリ正しく決定するであらう。銀行に對する統制、すべての銀行を唯一の銀行に融合すること——このことは未だ社會主義ではないが、社會主義への第一歩である。ドイツに於ては、地主やブルジョアが人民に對抗して、此手段をとつてゐる。此手段は明日、勞働者兵卒ソヴィエットが全×××××を掌握する時、人民のためにヨリ良く役に立つであらう。

しかし何がこの手段を强要するのであらうか？

飢餓。經濟の破壞。近づき來れる破壞。戰爭の慘禍。人類を打つ戰爭の殘忍なる痛手。これ等のものが以上の手段を强要するのである。

同志カメネフは其手記の結論に於て、『×××社會民主黨がプロレタリアートの×××大衆の黨たらんことを欲し又かくの如き黨でなければならぬ限り、又、××主義的宣傳家の一團に變ずることを願はない限り、×××社會民主黨にとつての唯一の可能な方法として、彼の立場を廣く討

論する』ことを希望すると宣言してゐる。

私は、情勢に對する全然誤謬に充ちた評價が此言葉の中に存してゐると考へる。同志カメネフは『大衆的黨』を『宣傳家團體』と對照せしめてゐる。しかし『大衆』は正に『××××』×××に有頂天になつてゐる。かゝる瞬間に於て、『大衆の足許に留まり』一般的氣分に追隨してゆくよりも、大衆の陶醉狀態に逆つて事を行ふといふことは、國際主義者にとつてヨリ貴重なことではないか？ 吾々は、ヨーロッパのあらゆる交戰國に於て、排外主義者が『大衆の足許に留まる』といふ希望を以て自己辯護をやつてゐる狀態を見てゐるではないか？ 吾々は大衆の陶醉狀態に對抗し、一時的に少數者となることを了解せねばならぬのではないか？ 『大衆』の小ブルジョア的な愛國主義的な陶醉に對しプロレタリア的方針を明らきまに示すことは、寧ろ現在の瞬間に於ける宣傳家の仕事ではないか？ 大衆の階級的差別を問はずに、プロレタリア的並に小ブルジョア的の大衆が一所になつてゐる事は、××××の傳染病の一條件となつてゐる。最後にいふ『宣傳家團體』を嘲笑的に論じることは、決してプロレタリア的方針に値するものではない。

（第七篇）

ペテログラード市地區會選擧と諸政黨

（一九一七年七月六日「プラヴダ」所載）

市・地區會選擧の候補者名簿が公表せられた。吾々はこゝに十地區だけの材料しか持つてゐない。だが、それにも拘らず、吾々はこの材料から諸政黨の非常に明瞭な姿像――それは選擧のアヂテーションのためにも、各階級に對する各政黨の連關を明白にするためにも、愼重に研究されねばならぬところの姿像――を得ることができる。

周知の如く、政黨に所屬するといふことは政治的發達の條件でもあり計度器でもある。一定の人民層又は一定の階級が政治的に發達し、啓蒙され、其意識を有することが强ければ强いほど、それだけ一般的に、黨に屬するといふことも發達してゐる。この一般原則は文明諸國の經驗の確證してゐるところである。階級鬪爭の見地からすれば、斯くあらねばならぬことは明白である。無黨主義や、又は黨方針や黨團體が明確性を有しないことは、階級性の不明確なことを意味してゐる。(このことは最善の場合のことである。最惡の場合においては、この缺陷は、衍學を以て政治的大衆を欺瞞することを意味して居り、議會制度の國々においては充分に知られてゐる現象である)

今日、ペテログラードで公表されてゐる候補者名簿は、諸政黨に關聯して、吾々に如何なる姿

像を示してゐるか？

十地區において全部で七十一人の名簿が公表されてゐる。之は一瞥、五つのグループに分ち得るのである。

第一、ロシア社會民主勞働黨――ボリシエヴイキ。この名簿は十地區すべてに提出されて居る。吾が黨は二つのグループ即ちメンシユラヨンチ及び國際主義メンシエヴイキとブロツクを結んで選擧に參加してゐる。このブロツクは嚴に原則に依據したものであり、吾が黨のペテログラード及び全ロシア會議の決議に依つて公表されてゐる。眼前におけるロシヤ及び全世界の政治生活上の根本問題は、プロレタリアートの國際主義と大・小ブルジョアジーの排外主義との間の鬪爭である。吾が黨は、吾が黨があらゆる國際主義者との「接近及び結合」を決心してゐることを公けに言明してゐる。（小ブルジョア的母國防衞ブロツクに對する國際主義者團結に關する吾黨全ロシア會議の決議を參照。）

かくしてプロレタリアートの黨は公然、明白、決定的に、選擧に進出してゐるのである。

第二、「人民自由黨」即ちカデツトは、階級的形相を明白に示してゐないことはない。この黨は

現實において反革命ブルジョアジーの黨である。この黨も亦、十地區において十の名簿を提出してゐる。周知の如く、今日、地主及び資本家のあらゆる政黨はカデツトを支持してゐる。彼等はたゞ過程的に秘密にこの支持をやつてゐるにすぎない。

第三、黨方針の明確さに於て第三の地位を占めるのは、蒸し立ての急進民主黨であつて、十地區において六の名簿を提出してゐる。誰れもこの黨を知つてゐないが、この黨も明白に資本家政黨であつて、その何物をも約束せざる約束を以て投票を「獲得」しようといふことに希望をかけてゐる。――これは覆面したカデツト黨の一種だ。

第四、第四の地位を占めるグループは九の地區に十七の名簿を提出してゐる。それはナロドニキ（勞働者グループ、社會革命黨及び人民社會黨）及びメンシエヴイキ、それに加ふるに、種々の混合物から成つてゐる不評判の「統一派」グループである。

これこそ正に小ブルジョア的雜炊であり小ブルジョア的無原則主義である。之等のどの黨も未だ嘗つて之等諸グループの接近及び結合を決議したものがない。これらのものは事件の成行に身を任かせ、排外主義に引きずられてゐる。彼等は泥沼に轉げ込み、もがき、各地區で種々様々に「這

ひ上らう」としてゐる、それ〴〵出來るだけ巧妙な身振りを以て。這ひあがるか、泥沼に落ちじまひになるか、――之が彼等の選まねばならぬ章句である。彼等が母國防衛又は妥協政府支持といふ原則に於て一致してゐるのだとすれば、何故に彼等は一個の統一的なる、現實において原則的なる、この選擧戰において公然と現れ出るが如き政治的ブロックに結成しないのであるか？

事實の眞相は、小ブルジョアジー卽ちナロドニキとメンシエヴイキとには原則も一個の黨方針もないといふことに在るのだ！　彼等はすべて母國防衛主義者であり現政府の支持者である。だが彼等相互は信じ合つてゐないのだ。社會革命黨は一つの地區では單獨で遣り、他の地區では人民社會黨及び勞働者グループと一所になつてゐる。彼等は最も頻繁にメンシエヴイキと一所にやつてゐるが、屢々「統一派」とも行動を共にしてゐる。卽ち彼等の新聞「デエロ・ナロダ」が敵對的又は侮蔑的口調で書いてゐる所の諸黨と一所に。

心配する勿れ！選擧人はすべてを呑み込んでくれるのだ。小ブルジョアジーは黨といふものについて何も知らない。原則については何も知らない。吾々は新聞では「統一グループ」に反對し

デューマには手を執つて一所に出掛ける……

そして、かういふ調子はメンシエヴイキに至つても正にその通りである。彼等は彼等の新聞では「統一派」グループに反對してゐる。またメンシエヴイキの全ロシア會議では、不評判なドイツチュが騷々しい不機嫌を以て彌次り倒された。それについては統一派が公然文句を言つてゐるほどである。心配することはない、小市民は忘れぽいから吾々は小市民のように振舞へばいゝのだ。吾々は「原則においては」ドイツチュやジョルダンスキーに反對である。吾々は勞働者の前では彼等に反對して見せる。だが代議士の座席を獲るためには之等の諸君と同じ名簿に並ぶことを恐れてゐない！　あらゆる階級意識ある勞働者はかうした芝居を知るであらう、そして彼等は最も廣汎な大衆に向つて、社會革命黨とすべてのナロドニキとメンシエヴイキとの間のブロックを暴露するであらう。

カザン及びスパスキーの兩地區では、メンシエヴイキも社會革命黨もゐない。彼等は明かに勞働者及び兵卒代表者の地區ソヴイエツトの名簿のなかに、卽ち無黨者の名簿のなかに、隱れてゐる。この兩地區において、小ブルジョア諸政黨は、黨方針に關する彼等自身の不徹底性を隱すことができず、無黨主義の泥濘のなかに終に陷り込んでゐる。「誰れでも吾々を選擧してくれるもの

がある以上、黨に所屬するといふことは不必要でないか？」これが小ブルジョア的議會主義者のどこまでも、またいつでも、繰り返す定まり文句である。

第五、第五のグループは完全な無黨者である。彼等は十の地區に二十八の名簿を提出してゐるが、大部分のグループは一地區にのみ存してゐる。それは單に俗物もであり、特に一地區内に限局されてゐる俗物どもである。そこにはどんなグループでもある！「家屋管理グループ」もあれば、「教育機關俸給生活者グループ」もあり、「正義、責任、公正」のためのグループもあり、更に「黨に屬しない、勞働する、民主的な共和主義者のグループ」もある。

同志よ、勞働者よ！　勞働に、最貧者の住居の調節に、家屋俸給生活者や遲れた勞働者の覺醒と啓蒙に、從事せよ！　「急進民主々義者」の假裝をしてゐる資本家及びカデット黨と戰へ！　ナロドニキとメンシエヴイキの小ブルジョア的母國防衛の殘物と戰へ！　無黨主義と無原則主義とのブロックに對して戰へ！

（第八篇）階級力の消長

（一九一七年七月十日「プラヴダ」所載）

各種の革命は、それが眞實の革命である以上、各階級の消長を導き出すものである。大衆の意識を深めてゆくための――そしてまた革命的空語を以てする大衆欺瞞を打ち破るための――最良の手段は、眼前の革命のなかにおいて、如何なる階級還元作用が完成されたか、完成されつつあるか、を分析することに在る。

一九〇四年乃至一九一六年の間に於て――即ちツアーリズムの最後の時期において――、ロシアにおける階級關係は特に鮮明に現れてきたのである。ニコラス二世を先頭とする一握りほどの封建的地主が權力を握つてゐた、――そして金融資本の寡頭貴族と最も密接に同盟してゐた。後者は未曾有の利得を掴みとつてゐたのであり、その利益を擁護するために外交政策上の種々の盜賊的條約が締結されてゐたのである。

カデット黨を先頭とする自由主義ブルジョアジーは、反對派の立場をとつてゐた。だが、彼等は反動よりも民衆の方を恐怖してゐたので、君主政治と妥協することに依つて權力に近づかうとしてゐた。

民衆、即ち勞働者と農民とは革命的であつた。彼等の指導者は非合法的活動のなかに追ひ込ま

れた。勞働者と農民とは一のプロレタリア的な、そしてまた小ブルジョア的な「革命的民主々義」を形成した。

一九一七年三月十二日の革命は××政治を一掃し、自由主義ブルジョアジーが權力を掴んだ。このブルジョアジーは、英佛帝國主義との完全な諒解の下においてたゞ單に一の小さい宮廷革命を欲求したにすぎぬ。彼等は決して立憲君主政治以上に出なかつた。だが革命が今や眞實に發展し、モナーキズムが完全に破壞され、勞働者及び農民のソヴイエツトが成立するに至つた今日となつては、この自由主義ブルジョアジーは徹底的に反革命となるにいたつた。

かの變革から四ケ月を經過した今日、自由主義ブルジョアジーの最も重要な黨たるカデツトの反革命的志向は明白となつてきた。すべての人がそれを見てゐる。すべての人がそれを認識せざるを得なくなつてゐる。しかも、すべての人はこの眞理に直面しこの意味を汲みとることについては一向一致してゐない。

ロシアは今や一の民主共和國である、この共和國は各政黨の自由な相互的諒解の下に指導され且つ民衆の間に自由にアヂテーションが行はれ得るのである。三月十二日以後の四ケ月間は、あ

らゆる半熟の政黨を完全に結合し統一せしめるに充分であり、選擧(ソヴイエツト及び地方機關)に際して各自の性質を露出せしめ、それ〴〵の政黨が種々の階級と關聯してゐることを曝露するに充分であつた。

現在、ロシヤにおいては反革命ブルジアジーが權力を握つてゐる。そして「反對派閣下」として、小ブルジョア的民主主義者卽ち社會革命黨及びメンシエヴィキが反革命ブルジョアジーに對立してゐる。是等の小ブルジョア黨の政策の全本質は、反革命ブルジョアジーとの妥協といふことに存してゐる。小ブルジョア的民主々義者は先づ地方機關を占領することに依つて權力に上らうと試みてゐる。(それはツアーリズムの下において自由主義者が先づゼムストヴオを獲得しようとしたことと似てゐる。)この小ブルジョア民主々義者はブルジョアジーと權力を分有しようと欲してゐるのであつて、ブルジョアジーの權力を破壞しようと欲してゐるのでない。それはカデツト黨がツアールと權力を分有しようとし、それを破壞しようとしなかつたことと全く同一である。小ブルジョア民主々義者(卽ち社會革命黨とメンシエヴイキ)のカデツト黨に對する妥協は、小ブルジョアと大ブルジョアとの階級的親緣といふことから條件づけられてゐる。それは資本家と二十世

紀の過大地主との階級的親縁が「神化された」××の周圍に結合するのと同じである。

妥協の形態は異つてゐる。帝政の下では、妥協は粗野な形をとる。ツアールはカデツト黨をして議會（チューマ）の座席を許したにすぎない。民主共和國の下においては、妥協はヨウロツパ風に美化されてゐる。大ブルジョアは、小ブルジョアの無害な少數者に對し、內閣の無害な（資本にとつて）椅子を許してゐる。

カデツト黨は元の帝政の地位を占めてゐる。ツエンテリ及びチエルノフは元のカデツト黨の地位に立つてゐる。プロレタリア民主々義者は、眞實に××的な民主々義者の地位を占めてゐる。

全發展は帝國主義戰爭に依つて、異常に促進せられた。この戰爭がなかつたならば、社會革命黨及びメンシエヴイキはなほ百年間も大臣の椅子に涎を流してゐねばならなかつたらう。だが此戰爭は全發展をなほも押しすゝめるだらう。何となれば戰爭は諸問題を改良的にでなく、革命的に提起してゐるからである。

社會革命黨及びメンシエヴイキは、ブルジョアジーとの聯合を通じて、ロシアに多くの改良を齎らし得るだらう。しかし世界政治の客觀的情勢は革命的である。それは改良を命令して居ない。

帝國主義戰爭は諸民族を强壓し粉碎しつゝある。小ブルジョア民主々義者は、この汚辱を少しの間だけ引きのばすことができる。革命的プロレタリアートのみがこの汚辱を燒きすてることができる。

（第九篇）

標語について

（一九一七年七月、小冊子として發表）

歴史が急激な方向轉換をした時には、進歩的な黨ですら、多かれ少かれ長い間、新しい情勢に親しむことが出來ずに、昨日までは正しかつたがしかし今はそのあらゆる意味を失つた標語を――歴史の急激な轉換が『突然』のものである限り、その意味を失ふことも亦『突然』である――いつまでも繰返すといふことは屢々ある。

略々同じやうな事が『××××をソヴイエツトに移せ』といふ標語に附いても繰返され得べきである。この標語は吾々の革命のなかで今日までに終つてしまつた時期の間――吾々は二月二十七日から七月八日までを指す――には正しかつたのである。この標語は明かに、もはや今日、正當であることを止めてゐる。これを理解することなくして、何人も今日の時代の緊急問題に通曉することが出來ない。各個の標語は一定の政治的情勢の全部から引き出さねばならぬものである。七月四日以後の今日、ロシアに於ける政治的情勢は、二月二十七日より七月五日に至るまでの時代に於けるものとは、根本的に違つてゐる。

當時、革命のうちのこの既に過ぎ去つた時代に於ては、國家内に於て所謂二重政府が支配してゐた。この二重政府は、實際的にも、形式的にも、國家權力の不確定な過渡狀態を表現してゐた

ものである。

當時、國家權力は動搖狀態の中にあつたのである。國家權力は相互の自由意志を以てする協約によつて、假政府とソヴィエットとの間に配分せられてゐた。ソヴィエットは自由なる勞働者と兵卒との代表者を表現してゐた。卽ち外部の如何なる權力にも從屬せず、且つ××してゐた所の團體であつた。民衆の手に存する××、民衆に對する外部の權力の無力――これが事態の本質であつた。

『すべての權力をソヴィエットに』といふ標語は、第一歩の標語、この平和的發展經路に直接に實現せらるべき手段の標語であつた、それは革命の平和的發展の標語であり、二月二十七日より七月四日までに可能であつた標語であつた。それは勿論、最も希望すべき標語であつたが、今日に至つては絕對に不可能となつてしまつたものである。

『すべての權力をソヴィエットへ』といふ標語のすべての支持者は、これが革命の平和的な前進的發展の標語であつたことを充分明白にしてゐないやうに見える。何人も、如何なる階級も、如何なる重要な力も、當時に於て（二月二十七より七月四日まで）ソヴィエットに權力を移すことに反

對することが出來ず且つこれを妨げることが出來なかつたといふ意味に於てのみ、平和であつたのではない。それが全部ではない。平和的發展は、當時ソヴィエットの內部の階級と黨との鬪爭が――全權力を適當なる時機に於てソヴィエットに移轉することに關し――出來るだけ平和に且つ苦痛なしに完成することが出來るであらうといふ點から見ても可能であつたのである。

事態のこの最後の點は、充分に考へられてゐない。ソヴィエットはその階級的構成からいへば、勞働者及び農民の運動の機關であり、その××の出來上つた形態であつた。若しソヴィエットが全權力を行使したのであつたならば、小ブルジョア的社會群の主要過失、その主要の罪、資本家に對するその輕信性は、實際に於て消え失せ、彼等自身の方策の經驗によつて、批評されたであらう。權力を有する諸階級及び諸黨派の解體は、ソヴィエット獨裁の下に、ソヴィエットの內部で平和的に發展することが出來たであらう。有らゆるソヴィヴット黨と大衆との結合は、確固不滅に存續し得たであらう。一瞬間たりとも忽せにならないのは、ソヴィエット黨と大衆との緊密にして且つ自由に擴大しゆく結合のみが、ブルジョアジーと小ブルジョア的契約を結ぶ幻想を、淸算するのを助け得たであらうといふことである。權力がソヴィエットへ移ることは、それ自體として、階級關係を